

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	30	御幸公園梅香事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			636000		幸区役所道路公園センター			浅見	72524

事業の概要										
事業の概要		かつて幸区に梅林の名所があった歴史を活かし、市制100周年に向け、梅の植樹による梅林の復活による区の魅力向上とともに、梅まつりの開催、歴史文化の伝承などを市民との協働で推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業		
		平成27年度		令和7年度						
地域の課題と現状		御幸公園のある小向一帯は、明治時代に梅の名所として有名になり、明治天皇が行幸された歴史があります。こうした区の地域資源を活かしながら様々な主体と協働・連携により魅力を高め、また、さらなる地域住民の参加を促すため、区民との協働による取組をより活性化する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	9,615	6,692	8,415	6,443				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財	1,400	1,400	200	200				
		一般財源	8,215	5,292	8,215	6,243				

計画 (Plan)	
事業の目的	梅林を市民と復活させるとともに、御幸公園が憩いの場、集いの場となり地域コミュニティの活性化につながることを目指します。
今年度の事業の取組内容	御幸公園梅香事業推進会議を開催し、進捗状況の確認及び課題の抽出・検討を行うとともに、梅林の復活を目指した梅の植樹、地域への愛着を深めるための写真展や川柳コンクール、地域との協働による観梅会を開催します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		御幸公園梅香事業推進会議の開催3回(8/10、11/20、2/17)。写真展の開催2回(区役所、日吉出張所)。河川財団の助成金を活用した梅林の管理。観梅会は、学校や地域、様々な団体等と連携したイベントを開催し、梅を鑑賞することができるプログラムと合わせ開催(期間:2/17～2/25、観梅会案内チラシのデザインは、総合科学高等学校生徒が作成)。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指標	梅香サポーターへの参加人数	目標	3	3			人
					実績	3	3			
		2	活動指標	梅の植樹（令和4年度をもって事業終了）	目標	10	—			本
					実績	10	—			
		3	成果指標	寄附受付額（令和4年度をもって事業終了）	目標	500	—			千円
					実績	604	—			
		4	活動指標	観梅会における地域活動団体等の参加	目標	8	8			団体
					実績	8	9			

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症に対する行動変容へ適切に対応するとともに、予防を徹底しながら市民及び様々な団体とのコミュニティを形成し、事業を推進することが求められます。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		コロナ禍で開催した令和2年度観梅会の取組と実績を踏まえて、観梅会の計画を見直しました。 総合計画第3期実施計画の策定や市制100周年に向けて、御幸公園梅香事業の方向性を確認し、必要に応じた見直しを行いました。	

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域活動団体等による観梅会でのプログラムを実施し、高校(市立幸、総合科学)の学習の機会で連携をしながら、コミュニティを形成していることから、依然、市民ニーズはあるものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	事業推進会議、写真展及び川柳コンクール、歴史講演会を計画どおり実施した他、区民祭への事業の紹介ブースの出展など、成果指標は概ね達成されており、有効性はあがっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	事業費については、引き続き河川財団の助成金を活用するなど、一般財源の縮減を図っていきます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	事業が進捗し、梅林内への植樹も計画どおり行われましたので。今後は、梅林の保全、地域住民や学校等との連携の強化や、歴史・文化の継承に取り組めます。 なお、多様な主体とのさらなる協働・連携に向け、市民協働による梅林の管理等サポーターの組織づくりを進め、地域資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	15	さいわい音楽推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		平山	62355

事業の概要

事業の概要		ミュージア川崎シンフォニーホールなど、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、「音楽のまち・かわさき」を推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域資源活用事業			
		平成9年度		—						
地域の課題と現状		幸区には世界でも有数の音響設備を持つミュージア川崎シンフォニーホールがあり、音楽に対する区民の関心も高く、今後とも身近な場所で気軽に音楽に親しむことができる環境を整備するとともに、演奏発表の機会を音楽活動団体へ提供し、全市をあげて取り組んでいる「音楽のまち・かわさき」を推進していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	3,931	3,437	4,385	4,241					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	3,931	3,437	4,385	4,241						

計画（Plan）

事業の目的	幸区内の施設において区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくるためコンサートを開催し、「音楽のまち・かわさき」を推進します。
今年度の事業の取組内容	・区民が身近な場所で良質な音楽を楽しめる 「夢こんさあと」を年6回と開催200回目を記念したコンサートをミュージアムシンフォニーホールで開催します。区民音楽祭「さいわいハナミズキコンサート」を年1回、心のバリアフリーをテーマにした「はび☆こん～誰もが幸せになるコンサート～」を年1回開催します。

実施結果（Do）

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	・「夢こんさあと」は、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度収束したことから、事前申し込み制や観客席数の制限などを解除し、年6回開催しました。また、令和6年2月24日(土)ミュージアザ崎シンフォニーホールにおいて200回目の開催を記念したコンサートを開催し、1,000名以上の方に、良質な音楽を提供することができました。 ・「さいわいハナミズキコンサート」は、令和5年12月2日(土)に5年ぶりに幸市民館において開催しました。区民にとってより身近な場所です730名の以上の方に、多様なジャンルの音楽を提供することができました。 ・「はび☆こん～誰もが幸せになるコンサート～」は、「心のバリアフリー」をテーマにミュージアザ崎1階ガレリアにて11月12日(日)開催。川崎市文化財団主催のバラムーメントの取組を推進する「Colors かわさき展」との連携や、田島支援学校の生徒にチラシ及びパンフレットのイラストを描いてもらうなど、さまざまな機関と連携しました。アンケートの結果、来場者は「楽しめた」、出演者の感想「良かった」がともに100%で、多くの来場者の満足と事業目的に対する共感を得ることができました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1 成果指標	夢こんさあと来場者数 ※記念公演実施のためR5は目標値を修正	目標	320	1,000			人
			実績	338	1,500			
	2 成果指標	はび☆こん来場者数	目標	200	200			人
			実績	180	210			
	3 成果指標	さいわいハナミズキコンサート来場者数 ※会場の変更に伴いR5は目標値を修正	目標	800	700			人
			実績	700	730			
	4		目標					
			実績					

評価（Check）

事業を取り巻く 社会環境の変化		幸区は、高齢化率が高く、コンサート来場者の現状においても高齢者が多いため、来場者のニーズに合わせた運営が必要とされています。		
事業の見直し・改善内容		☐ 実施（直近）平成 30 年度 ☐ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		「はび☆こん～誰もが幸せになるコンサート～」は、「さいわい街かどコンサート」を改め、事業目的に「心のバリアフリー」を掲げ、パラムーブメントの取組を推進する「colors art fair」と連携して平成30年度から実施。出演者は障害がある個人音楽愛好家や主旨に賛同するプロ・アマの音楽家など。多くの来場者の満足と共感を得ています。		
		評価項目		評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度収束したことで、観覧者数は増加傾向にあり、事業のニーズは高いと考えます。また、「音楽のまち・かわさき」を推進していく上でも重要な取組であると考えます。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度収束したことで、観覧者数は増加傾向にあり、成果は上がっていると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	それぞれ事業目的が異なる3つの音楽事業を、各事業の対象等が重なることなく効率的・効果的に実施し、「音楽のまち・かわさき」の推進を図るとともに、引き続き来場者の満足度を高める工夫を検討していきます。		

改善（Action）

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のままだ継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	より多くの区民が身近な場所で気軽に音楽に親しめる環境をつくるため、事業目的がそれぞれ異なる3つの音楽事業を幸区内の様々な施設において開催をしていくことは重要であり、引き続き来場者ニーズを捉えながら満足度を高めるよう運営の見直し・改善を図りながら事業を進めていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	10	さいわいものづくり体験事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		平山	62355

事業の概要									
事業の概要		科学技術関係機関やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を活かし、新川崎地区の研究施設や区内企業等との協働・連携で科学体験教室を開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域との結びつきを深めます。							
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域資源活用事業		
実施期間		平成25年度		—					
地域の課題と現状		幸区の魅力のひとつとして、地域資源である研究開発施設等の存在を多くの区民に周知し、理解及び関心を深める必要があります。また、若い世代の科学技術への関心が求められる中で、青少年向けに興味深いテーマを提供して教室を開催し、継続的に科学やものづくりを体験してもらうことは非常に重要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,759	811	1,759	1,759				
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財	33	0	33	13			
一般財源		1,726	811	1,726	1,746				

計画 (Plan)	
事業の目的	研究開発施設やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を生かし、これらの地域資源を活用した科学技術体験教室や科学体験イベントを、企業や団体と連携して開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域と研究開発施設等との連携を深めます。
今年度の事業の取組内容	・慶應義塾大学新川崎タウンキャンパス、新川崎・創造のもり地区の研究施設、区内企業及び市民活動団体等と連携し、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶことができるイベント「科学とあそぶ幸せな一日」(年1回)を開催します。 ・区内企業と連携し、テーマを絞った体験教室を開催します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・「科学とあそぶ幸せな一日」(日程:8月26日(土)会場:新川崎・創造のもり)は、昨年度まで新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小して開催していましたが、4年ぶりに自由入場として実施しました。また、ホームページ上で「おうちで楽しもう!科学とあそぶ幸せな一日」を企画し、慶應義塾大学や関係企業、市民活動団体などの協力を得て、40以上のコンテンツ(出展者数:24団体)を掲載し、子どもたちが科学を楽しく学べる環境を創出しました。 ・さいわいトライサイエンス実験教室(日本IBM株と協働で実施)は、令和4年度で事業を終了しましたが、「科学とあそぶ幸せな一日」において、日本IBM株に出展をしていただき同様の内容を実施することができました。 ・さいわいテクノ塾(日程:12月16日(土)、会場:東芝未来科学館)は、東芝未来科学館の協力のもと、LEDの仕組みを学びながら、自分で描いた絵を光らせるライトを制作する講座を実施しました。 ・事業全体を通し、区内企業、市民活動団体、大学とも連携を図り、研究開発施設等が集積した幸区の特徴を活かした事業を展開しています。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	科学とあそぶ幸せな一日参加者数(保護者含む)	目標	300	1,300			人
				実績	223(500)	1,300			
	2	成果指標	さいわいトライサイエンス実験教室参加者数(令和4年度で事業終了)	目標	40	—			人
				実績	0	—			
	3	成果指標	さいわいテクノ塾参加者数(応募数)	目標	40	40			人
実績				57(135)	61(178)				
4			目標						
			実績						

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		幸区には科学技術関係機関やものづくり関連施設が集積しており、新たな企業等も参入しています。少子高齢化が進む中、子育て世代の区民が幸区に愛着を持ってもらえるよう、その資源を最大限活用して、魅力的な青少年向けの事業を行うことが重要と考えられます。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 2 年度 □ 今後実施 (年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和2年度から、同時期に開催していた「さいわい子どもエコフェア」を「科学とあそぶ幸せな一日」に事業統合しました。新型コロナウイルス感染症の影響により開始したホームページ上コンテンツの「おうちで楽しもう！科学とあそぶ幸せな一日」を内容を更新しながら引き続き実施しています。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	新川崎・創造のもり地区をはじめ、幸区には科学技術研究機関やものづくり関連施設が集積しており、これら地域資源を活用した取組は今後ますます重要となってくると考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	イベントへの参加者希望者は非常に多く、また、大学・企業・市民活動団体等の協力先も増えており、成果は上がっているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	委託団体等と協議を行い、役割分担の見直し等により、事務負担軽減に向けた改善を進めていきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	子ども向け科学イベントは、企業、市民活動団体、大学、行政での協働で行っている事業であり、企業や大学等にとっても地域への社会貢献として有意義な取組となっています。また、来場者アンケートの結果からも科学イベントへの関心は高く、引き続き需要が見込まれます。新川崎・創造のもりにあるKBICIに、量子コンピューティングシステムが設置されるなど、新川崎・創造のもりを中心に、幸区には科学技術研究施設が集積しており、これら地域資源を活用した事業展開を推進していくことが重要であると考えます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	40	花と緑のさいわい事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		芝田	62355

事業の概要									
事業の概要		区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。							
実施期間		事業開始年度 平成9年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域資源活用事業	
地域の課題と現状		幸区には大きな公園や緑地が限られているため、小規模な公園等で緑化推進を図ることも重要な取組課題の1つです。事業推進に当たっては、区民同士の交流を図るため、地域を巻き込んだ取組が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,894	3,635	5,620	5,583				
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財	33	30	33	50				
	一般財源	3,861	3,605	5,587	5,533				

計画 (Plan)	
事業の目的	区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。
今年度の事業の取組内容	「さいわい花クラブ実行委員会」や「さいわい加瀬山の会」などの区民ボランティアグループを中心に、近隣の小中学校や高校との協働により、大師堀公共花壇、夢見ヶ崎動物公園、幸区役所庁舎前などにおいて花植えおよび緑化推進につなげるイベント等を行います。また、「緑化活動団体支援事業」を年1回実施するほか、植物に興味を持つきっかけとなるような、区民向けの講習会を企画・実施することで、区民が行う緑化活動を支援し、区民の緑化意識の高揚と花と緑の潤いのある明るいまちづくりを推進します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に 対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		・大師堀公共花壇では、春秋年2回の花植えを下平間小学校・塚越中学校、さいわい花クラブと連携し、児童・生徒と一緒に植え付けを実施しました。 ・夢見ヶ崎動物公園花植え事業は、春秋年2回の花植えを近隣の4つの小学校と地域活動団体さいわい加瀬山の会と協働で、植え付けを実施しました。 ・区民に緑に親しむ機会を提供するとともに、「さいわい花クラブ」の活動周知と人材確保を目的に、11月24日（金）に講習会「観葉植物の寄せ植え講座」を実施しました。定員（50名）を大幅に上回る応募があり、参加者の中からさいわい花クラブへの加入希望者も獲得しました。 ・緑化活動団体支援事業は、10月から11月にかけて42団体へ花苗を提供しました。 ・多様な主体との協働により事業を実施するとともに、各種事業を通じて区民の交流促進が図れました。								
数値で把握することが可能 な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指標	さいわい花クラブ活動参加延べ人数	目標	270	270			人
					実績	270	270			
		2	活動指標	緑化活動団体支援事業における花苗配布団体数（年間延べ）	目標	40	40			団体
					実績	42	42			
		3	成果指標	「さいわい花クラブ実行委員」と協働で実施する講習会への参加者数（応募数）	目標	50	50			人
実績	30（74）				50（111）					
4	活動指標	花植え事業年間実施回数	目標	2	2			回		
			実績	2	2					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		緑化フェアの開催に向け緑への関心が高まり、緑化活動への取組は引き続き重要と考えます。事業を遂行するにあたり重要な役割を果たす「さいわい花クラブ実行委員会」は、新たな加入者を増やしながら中心となるメンバーの意識やスキルも向上し、定例会議を自主運営し、市民活動団体として主体性を持って進めています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施(令和3年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		緑化活動団体支援事業について、業務の効率化と予算の適正化を踏まえ、令和3年度から年2回の配布から年1回への配布に見直しを図りました。		
評価項目				評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている a
	評価の理由	緑化フェアの開催に向け緑への関心が高まっている中、区内の緑化推進及び区民の緑化意識高揚を図るには重要な取組と考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない a
	評価の理由	さいわい花クラブ実行委員については、自ら運営に取り組み、メンバー間で緑化意識の高揚や交流を促進するなど意欲的に活動を行い、新たな人材の確保にもつながっています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。			a. 可能性はない b. 可能性はある b
	評価の理由	より区民が主体となって活動できるよう、引き続き支援を行っていきます。また、区内の緑化がより多くの区民の手によって効果的に広げられるよう見直しを図りながら事業を推進していきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	令和6年度の緑化フェア開催に向け、緑化活動への取組は引き続き重要と考えます。事業目的や方向性は維持するものの、業務の効率化や予算の適正化を踏まえ、緑化活動支援事業については見直しを図りました。今後も社会環境の変化等を踏まえながら、適宜見直しや改善を図り、効率的・効果的に事業を継続することが適切であると考えます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	05	60	地域の魅力発信事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			631650		まちづくり推進部 企画課		連絡先
							林
							62125

事業の概要										
事業の概要		貴重な地域資源である夢見ヶ崎動物公園や鉄道ビュースポット、絵本作家かこさとしさんのゆかりの地といった区の魅力について、その魅力を高めるとともに、区民へ発信することで区への愛着を高めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業		
		平成23年度		—						
地域の課題と現状		市内唯一の動物園である「夢見ヶ崎動物公園」や、新たな区の魅力である鉄道ビュースポット、かこさとしさんのゆかりの地などの地域資源を活かし、区民や市民団体、企業など様々な主体との協働・連携により賑わいを創出することで、地域への愛着と誇りをさらに高めていくことが求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費		3,637	2,366	4,812	4,190				
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	3,637	2,366	4,812	4,190				

計画 (Plan)	
事業の目的	区の地域資源について、魅力を高めるための取組を推進するとともに、区民・企業・団体など様々な主体と連携協働することで賑わいを創出します。
今年度の事業の取組内容	①かこさとしの絵本を活用したイベント等を実施し、かこさとしと区とのつながりを区民に広く知ってもらうため、地域・企業・団体と連携した取組を実施します。 ②新鶴見信号場をはじめ、区内に点在する鉄道スポットの魅力を感じてもらうために、企業・団体との連携・協力により鉄道イベントを実施します。 ③夢見ヶ崎動物公園周辺で活動する団体、町内会などで構成される「ゆめみらい交流会」を開催し、新たなつながりの構築や賑わいの創出に向けた意見交換・情報共有を行うとともに、それを踏まえた取組を実施します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	①区民にかこさとしの魅力を伝えるため、5月、7月、1月に地域イベントで絵本読み聞かせコーナーを設置するとともに、古市場第2公園に幸区とかこさとしのゆかりを紹介する案内板を設置し、周知を行いました。 ②新鶴見信号場をはじめ、区内に点在する鉄道スポットの魅力を感じてもらうために、企業・団体と連携し、1日イベントを10月に、併せてフォトコンテストや新鶴見機関区構内見学ツアーを実施しました。 ③公園周辺で活動する団体や企業、町内会、動物公園サポーターなどが情報交換し、新たなつながりの構築や賑わいの創出に向けた意見交換を行う「ゆめみらい交流会」を7月、9月（2回）、11月、3月に開催しました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	鉄道イベント参加者数	目標	1,000	1,000			人
				実績	1,000	3,500			
	2	活動指標	「ゆめみらい交流会」の開催数	目標	2	2		回	
				実績	2	5			
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					
				目標					
実績									

評価 (Check)					
事業を取り巻く社会環境の変化		幸区の貴重な地域資源である夢見ヶ崎動物公園について、「夢見ヶ崎動物公園基本計画(H30年3月策定)」も踏まえ、建設緑政局とも連携・調整の上、多様な主体と連携し、新たな魅力と賑わいを創出していく必要があります。			
事業の見直し・改善内容		☐ 実施 (直近) 年度 ☐ 今後実施(年度から)			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		平成28年度まで地域の魅力発信事業で実施していた花植え活動は、地域振興課の公共花壇花植え事業において同様に地域の小学生との花植えを行っていたことから、業務の効率化を進めるため、平成29年度から「花と緑のさいわい事業(地域振興課)」に統合しました。			
		評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	市内唯一の動物園がある夢見ヶ崎動物公園の魅力を高めていくことは、地域資源を活かしたまちづくりを推進する上で重要であり、また、同公園を核とした活動団体・企業等の「つながり」を構築することは、「夢見ヶ崎動物公園基本計画基本方針」における「多様な主体との連携の充実による賑わいの創出」に寄与するものと考えられます。			
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	鉄道スポットを活用した魅力発信事業では、1日イベントに予想を上回る約3,500人に来場いただき、事業の周知度が上がっていることが伺えた。また、スタンプラリーやフォトコンテスト、新鶴見機関区構内見学ツアーをあわせて実施することで、広く区内のスポットに足を運んでもらうことができ、鉄道スポットとあわせて地域の施設等の魅力にも触れてもらうことができたと考えます。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。			a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	「ゆめみらい交流会」による団体間の連携・交流をより活性化させるため、令和5年度より試行的に、交流会を団体主導の運営に移行し、自立支援を行いました。令和6年度より「ゆめみらい交流会推進事業」として独立するため、より活動団体等が主体となるよう実施方法や役割分担等の更なる検討を行う必要があると考えられます。			

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	これまで、夢見ヶ崎周辺の魅力発信の取り組みの1つとして、地域の魅力発信事業にて事業を実施していましたが、今後はゆめみらい交流会の自立支援に向け、地域の魅力発信事業とは切り離して独立した事業とし、活動団体等が主体となるよう取り組みを進めてまいります。 また、新たな賑わい創出に向けて、鉄道スポットを活用した魅力発信について、今年度の取組で更に多くの企業・団体との連携が生まれたため、引続き連携を深めていくことで新たな企画を取り入れながら事業を進めていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	20	地域資源を活かしたまちづくり事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課(日吉地区担当)			谷口	72301

事業の概要										
事業の概要		日吉地区に点在する自然・歴史・文化などの豊富な地域資源を大切にしていくとともに、地域で活動する団体・個人がこれらの地域資源を活用し、次世代に継承していくことにより、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業		
		平成19年度		—						
地域の課題と現状		地域コミュニティの希薄化が進む中で、マンションの増加などで新規住民は増加しております。日吉地区の歴史や文化などの地域資源を守り、次世代に伝える事業は、区民の地域への愛着を醸成することが必要です。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	348	105	172	84					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	348	105	172	84						

計画 (Plan)	
事業の目的	日吉地区の歴史や魅力を発信し区民が地域に愛着を持つことにより、よりよいまちづくりの実現をめざします。
今年度の事業の取組内容	コロナ禍が明けたこともあるので、時候の良い時を選んで、地域散策を取り入れた講座となるように、企画を進める予定です。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	コロナ禍が明けたこともあり、気候が安定する秋～初冬の時期に、外歩きを含む講座を全6回開催しました。 講座で前もって散策先の歴史について学習をしてから出かける形式は好評であり、早くから市民館だよりによる広報を行ったこともあり、リピーター・初参加の人も含めて、参加者を早くから集めることができました。 歩行に自信のない方など、座学のための参加者を受け入れたことにより、定員より多くの地域住民に講座を体験してもらうことができました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	歴史講座の参加人数	目標	20	15			人
				実績	14	23			
	2	成果指標	てくてく日吉（大人向け） （R4年度で終了）	目標	10	—		人	
				実績	12	—			
	3	成果指標	てくてく日吉（子ども向け） （R4年度で終了）	目標	20	—		人	
				実績	15	—			
	4			目標					
実績									

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		地域コミュニティの希薄化が進む中、自然・歴史・文化などの地域資源の活用を通して、身近な地域における学びと交流の場が求められています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 5 年度 ■ 今後実施(令和5年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		「日吉のタカラモノ活用事業」が一定の成果を上げることが出来たため、「郷土の歴史と文化を活かした日吉まちづくり事業」に一本化して、地域の歴史を学ぶ学習活動等を展開していきます。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	郷土の歴史は幅広い層に伝承していく大切な地域資源であり、区民が地域に愛着を持つ動機づけとなっています。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	今後も継続して参加者が見込まれることから、日吉地区の魅力を向上させるための情報発信の場として有効な事業となっています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	地域団体・個人とのネットワークを活用させ、市民館として実施している事業との連携など、効率的、効果的な事業執行を行っています。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	地域で活動する団体及び個人がネットワークを構築し、地域特有の自然・文化・歴史を守り、世代間の交流を促進する本事業は、参加者も多く、今後も地域のニーズを見定め、社会変化に配慮しながら、見直し・改善のうえ継続していきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	50	さいわい脱炭素推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			大野	62122

事業の概要										
事業の概要		地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけるため、小学生を対象とした環境学習イベントの開催、区民と連携した緑のカーテンづくりや企業等と連携したプリンターインクカートリッジ、廃食油の回収など、環境に配慮した取組を行います。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業		
		平成20年度		—						
地域の課題と現状		「かわさきカーボンチャレンジ2050」が策定され、脱炭素の社会の実現に向けて環境団体と連携協力しながら、区民に対して普及啓発していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	235	185	235	174					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	235	185	235	174				

計画 (Plan)	
事業の目的	地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけ、区内でのエコの取組を推進するとともに、脱炭素についても普及啓発していきます。
今年度の事業の取組内容	最新の環境配慮設備が導入されている幸区役所庁舎を題材とした「さいわいエコツアー」を企画し、区内の小学生と保護者を対象とした環境学習を通じてエコの意識醸成を図ります。また、区民と連携した緑のカーテンづくりや企業等と連携したプリンターインクカートリッジ、廃食油の回収など、環境に配慮した取組を行います。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・環境配慮設備が導入されている区役所庁舎のツアーの実施や環境学習を通じた「さいわいエコツアー」を開催しました（参加人数32人）。環境学習は、環境関連の2団体の協力のもと、脱炭素をクイズで学んだり、体験工作を行うプログラムを実施しました。また、参加者以外の区民・児童に広く周知するため、区HPに開催概要を掲載しました。 ・ゴーヤーの種の配布による緑のカーテンづくりの普及、インクカートリッジの回収や廃食油の回収などの取り組みを実施しました。 ・エコ活動につながるノベルティを制作し、「さいわいエコツアー」において配布することで、環境に関する啓発を行いました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	庁舎を活用したエコツアー 参加児童数	目標	15	15			人
				実績	15	16			
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
実績									

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		2016年5月:国が「地球温暖化対策計画」を策定。2030年の温室効果ガス排出量を2013比で26%削減する目標が掲げられた。 2020年11月:2050年までにCO2排出量実質ゼロの達成を目指す「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定。 2022年4月:国の「脱炭素先行地域」に選定。 こうした動向や気候変動の影響などを踏まえ、区としても着実に地球温暖化対策を進める必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近）令和 2 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R2年度:これまで開催していた「エコフェア」は区内の類似イベントとの統合化を図る一方、環境学習に特化したイベント(さいわいエコツアー)を実施し、効果的な環境啓発を行うよう事業の見直しを行いました。		

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	本市に大きな被害をもたらした令和元年台風第19号や令和6年能登半島地震など、災害という形で気候変動の影響が顕在化しており、施策の必要性及び区民の環境意識は高まっているため、継続した環境啓発の必要性は高いと考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	さいわいエコツアーにおいて、区内で活動する市民団体と連携した企画とすることで、区が単独で実施するよりも効果的に事業が実施できることから、一定の成果が上がっていると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	さいわいエコツアーにおいて、対象者に合わせた企画内容の検討や回数、人数など開催手法の検討を行い、より多くの区民に対して効果的な啓発につながるような事業となるよう見直しを図ります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	2050年の脱炭素社会の実現のために、区民の更なる環境意識の向上が求められていることから、引き続き環境啓発事業を継続するとともに、幸区役所エコツアーについても、時節に応じた内容や、関心が高い環境分野のテーマ・内容を盛り込むなど、参加者のニーズに合わせた内容とし、区HPの活用など区民に広く周知できるよう見直しを図ることで、より効率的・効果的な事業となるよう進めていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	55	さいわいガイドマップ発行事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		芝田	62355	

事業の概要									
事業の概要		幸区の地理や公共施設の一覧など、区民生活に必要な基礎的な情報を提供するため、幸区への転入者を主な配布対象者とする「さいわいガイドマップ」を発行し、利便性の向上や地域理解の促進を図ります。							
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
実施期間		平成2年度		一					
地域の課題と現状		新たなマンションの建設や再開発により地図情報は日々変化しており、その更新を確実に行っていく必要があります。また、限られたスペースに、より有用な情報を選択して掲載する必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	850	792	850	836				
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財	125	183	125	183			
一般財源	725	609	725	653					

計画 (Plan)	
事業の目的	転入者をはじめ区民の方々に向けて、区内の地図や公共施設一覧、幸区の見どころなどを紹介し、幸区を知ってもらうとともに、親しみを持ってもらうことを目的とします。
今年度の事業の取組内容	幸区内の地図や公共施設の一覧、バス路線図の情報など区民生活に必要な基礎的な情報を提供するための「さいわいガイドマップ」を最新の情報に更新し、10,000部発行します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	2	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	・地図情報の更新や掲載内容については、各所管課へ確認してもらうことで効率的かつ正確に最新情報を集めて見直しを図り、10,000部発行しました。 ・ガイドマップを手にする方の多くが転入者であることを踏まえた上で、幸区の魅力がより伝わるガイドマップとなるよう掲載内容についても見直しを図りました。 ・目標以上の広告収入を得ることができ、経費を節減することができました。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指 標	広告収入	目標	125	125			千 円
				実績	183	183			
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		幸区は、新たなマンション建設や再開発が行われるなど地図情報が日々変化している点や地域包括ケアシステムの構築や地域コミュニティの活性化を進める中で、ガイドマップは区の情報ツールとしてますます重要となります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 4 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		広告の掲載数および広告料の増加により前年度以上の経費節減を図りました。		
評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区の概況を凝縮した広報物であり、地理的情報ツールとしても需要は高いと考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	保育園入園希望者などに対して窓口で配布するなど、転入者以外についても配布需要が増えていきます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	引き続き広告収入の確保に努め経費節減を図るとともに、事務作業の効率化などの改善を進めていきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	需要の高い広報物であることから事業の目的や方向性を維持し、内容を更新しながら今後も区民にとってわかりやすい誌面作りを行っていく事が適切であると考えます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	70	地域活性化推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部企画課			我妻	62126

事業の概要										
事業の概要		川崎駅西口周辺を中心とした地域資源を活かし、地域が一体となって多様な主体によるイベント等を実施し、市制100周年に向けて、新たな多世代の交流及びまちの賑わいを創出することで地域活性化を推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域資源活用事業費			
		令和5年度		—						
地域の課題と現状		川崎駅西口は大型の文化施設や商業施設を有しており、現在も新たなまちが形成されています。今後、より一層川崎駅西口の持つ力を発揮し、市内外にその魅力を発信していくことが、区民の区への愛着と誇りの醸成につながるものと考えられるため、地域の事業者や区民と一緒に賑わいを創出していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	—	—	5,999	4,108				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財 一般財源			5,999	4,108				

計画 (Plan)	
事業の目的	地域の事業者や区民と連携し、多様な主体によるイベント等を実施し、川崎駅西口周辺の賑わいを創出します。
今年度の事業の取組内容	①地域の事業者や区民が主体となって賑わいを創出するため、実行委員会や幹事会を発足します。 ②実行委員会や幹事会が中心となって、川崎駅西口周辺の賑わい創出につながるイベントを実施します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	目標どおり達成できました。 ①地域の事業者や団体が中心となって川崎駅西口周辺のにぎわいを創出するため、実行委員会と幹事会を発足しました。 イベント開催に向けて、実行委員会を3回、幹事会を6回開催しました。 ②実行委員会、幹事会が中心となって、令和5年11月に「さいわいにぎわいフェス」を開催しました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標 実行委員会や幹事会の開催回数	目標	—	5				
			実績	—	9				
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
	4		目標						
			実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		地域の課題を適切に把握し、解決に向けて取り組んでいくため、引き続き地域の多様な主体と連携していく必要があります。また、市制100周年主要事業として、総務企画局や建設緑政局とも連携・調整を行う必要があります。	
事業の見直し・改善内容		☐ 実施 (直近) ☐ 年度 ☒ 今後実施 (7 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		市制100周年後も継続して、地域のにぎわいを創出するため、実行委員会や幹事会の今後のあり方なども含めて検討を行います。	

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	川崎駅西口周辺は大型商業施設や文化施設等が整備されたところであり、これらを活用し地域が一体となってにぎわいを創出することが、より魅力的なまちづくりにつながるものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域の事業者や団体が構成される実行委員会や幹事会をとおして、イベント等の事業を実施することで、地域がより主体性を持って地域課題への解決に取り組むことができると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	実行委員会等がより主体的に事業の運営が行えるよう、事業の実施方法や役割分担を見直ししていく必要があると考えます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	引き続き、川崎駅西口周辺のにぎわいを創出するため、実行委員会や幹事会と連携し、市制100周年に向けた取り組みを進めていきます。また、市制100周年後も実行委員会が主体的に地域課題の解決ができるよう必要な支援を行っていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	10	25	幸区地域包括ケアシステム推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		青木、松浦	62883

事業の概要									
事業の概要		区民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域の実現が課題となっていることから、町内会・自治会を中心に地域住民が主体となり、人と地域のつながりが活発で、多世代が互いに見守り支え合う地域づくりを推進します。また、自助・互助の意識の醸成による地域課題解決に向けた取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度 平成27年度		事業終了年度 —		予算中事業		健康福祉まちづくり事業費	
地域の課題と現状		ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等の孤立化を防ぐため、町内会・自治会単位で見守り支え合いの活動を行うご近所支え愛事業にて、地域特性に合わせた区民主体の見守り支え合う様々な活動が生まれています。また、ご近所支え愛事業に参加していない町内会・自治会においても、独自の見守り支え合いの活動を進めています。 今後も、多様な主体の参加と協働による地域包括ケアシステム構築を推進していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,665(2,017)	1,286	2,744	1,492				
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	2,665(2,017)	1,286	2,744	1,492					

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域の実現を目指し、幸区地域包括ケアシステム推進事業を実施します。
今年度の事業の取組内容	幸区の地域包括ケアシステムの構築に向け、ご近所支え愛事業など町内会・自治会や集合住宅等の単位で自助・互助を深める活動を支援します。また、企業・団体等の多様な主体と連携した取組を推進します。 自助・互助の意識醸成に向けて、地域包括ケア推進に関する講演会(1回)を開催するほか、認知症の方や障害のある方など多様な人が地域で共に暮らすことへの意識向上の取組を推進します。

実施結果 (Do)														
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った												
取組内容の実績等	・ご近所支え愛事業では、合計30の町内会・自治会で部会を設置し、地域での活動状況などの情報を町内会・自治会役員や民生委員等の部会員と共有しました。 ・新塚越地区のマンション自治会に対し、健康体操の立上げ支援を通じて、住民同士の見守り意識向上のための取組支援を実施したほか、南河原地区の町内会に対し、認知症を主題に、住民同士の見守りの促進に向けた取組支援を実施するなど、自助・互助の取組の推進・拡大につなげました。 ・子育てフェアの開催を通じて多数の子育て支援機関や区内企業・団体と連携・協力することができたほか、区民祭や講演会等の様々な場面で看護大学と連携した取組を行うなど、多様な主体と連携した取組を着実に推進しました。 ・自助・互助の意識醸成に向けた地域包括ケアシステム講演会を、認知症をテーマに開催(1回)しました。また、区民祭でのVR体験ブースの運営等を通して、認知症に対する理解を深めるための取組を行ったほか、「COLORS SAIWAI」として障害のある方が地域で活動する様子を動画にして広く紹介するなど、多様な人が地域で共に暮らすことへの意識向上の取組を推進しました。													
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		単位	
	1	活動指標	自助・互助の取組を推進するための活動支援をした地域の数	目標	32	34							地域	
				実績	32	34								
	2	活動指標	企業・団体等と連携した地域包括ケアシステム関連の事業実施数	目標	2	2					事業			
				実績	2	3								
	3	成果指標	地域包括ケアシステム関連の事業で連携した企業・団体数	目標	31以上	31以上					企業・団体			
				実績	39	37								
	4			目標										
				実績										

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	幸区の高齢化率は、令和5年10月1日時点で21.71%で全市平均の20.55%を上回り、一人暮らしや高齢者のみ世帯、要介護者や認知症高齢者も増えています。一方で、区内における大規模マンションの新設等によって若い世代の転入も増えており、多様な人々が安心して暮らし続けることができる地域の実現に向けた取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 5 年度 □ 今後実施(年度から)
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R5年度:地区単位で進む地域づくりの取組状況を共有しつつ、各地区の実情に応じて、更なる課題を抽出するなど、今後の取組の方向性に向けて検討を進めました。 R4年度:昨年度実施したヒアリング結果の分析を踏まえつつ、地域ごとの課題の抽出やアプローチ手法の検討を進めました。 併せて、ご近所支え愛部会未設置の地域も含めて、集合住宅単位など様々な視点で自助・互助を深める活動を支援しました。 R3年度:ご近所支え愛事業の仕組みに限らず地域独自の見守り・支え合いの活動を尊重して、部会未実施の町内会・自治会へ個別にヒアリングを行い、地域活動等の状況を共有しました。 R1年度:部会設置地区の住民へのインタビューから事業実施のコツをまとめたパターンランゲージ「まちバタ」を作成しました。

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	24時間365日地域で暮らし続ける区民がお互いに見守り、支え合う意識の醸成を促進するとともに、多様な主体の参加と協働により地域包括ケアシステム構築に向けて取り組む必要性は一層高まっているものと考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	ご近所支え愛事業のほか、集合住宅等において自助・互助の取組を推進するための活動支援を着実に推進しています。また、多様な主体との連携も強化しており、事業の成果は上がっているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	引き続き、ご近所支え愛事業の手法に固執することなく、幅広い視点で地域での自助・互助の取組を推進していく必要があると考えます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	幸区における地域包括ケアシステムの構築に向け、地域住民と十分な対話を行いながら、各地域で自助・互助の意識を高めていきます。また、多様な主体と一層連携・協力しながら地域づくりに向けた取組を推進していきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	10	健康づくり推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635150		地域みまもり支援センター 地域支援課			高橋・木村	62811

事業の概要									
事業の概要		地域の高齢化が進む中で、地域交流や住民同士の支え合いの促進に向けて、地域活動の担い手として期待される世代(50代)に対し、自助・互助の取組や社会参加、健康づくりの普及啓発を推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		健康福祉まちづくり事業	
		平成20年度		—					
地域の課題と現状		50代は人生100年時代の折り返し地点となり、自身の体調の変化や親の介護等、これからの将来を自分事として捉える必要があります。また、アプローチが難しい世代であり、今までにない普及啓発の方法の工夫が必要です。このような時期を捉え、この世代の興味関心の高い内容を取り入れながら、健康づくり、地域活動のイメージや自主グループの紹介などを行い、地域の自主グループ活動の課題であるボランティアの高齢化の解消に向け、次世代の人材把握に繋がります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	500(429)	419	499	372				
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源	500(429)	419	499	372				

計画 (Plan)	
事業の目的	区民がいつまでも住み慣れた地域でつながりを持ちながらいきいきと暮らせるよう、身近な場所で主体的に健康維持・増進活動及び仲間づくりの活動に取組むことを支援します。
今年度の事業の取組内容	・R4年度作成した冊子「50歳からのさいわい健幸ブック」を増刷します。 ・「50歳からのさいわい健幸ブック」を活用し、R4年度まで実施していた健康づくりグループを中心とした自主グループ交流会から、50歳以上を対象にした普及啓発講演会を年1回開催します。身近な地域で気軽に参加できる活動を周知し、健康増進に関する情報を発信することで区民の健康づくりの意識向上や生きがいづくり、仲間づくりを支援していきます。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		昨年度作成した「50歳からのさいわい健幸BOOK」をホームページや市政だより、保健福祉情報さいわいなど多媒体を通じて普及啓発した。50歳からの健康づくりだけでなく、さらに働き盛り世代を対象として、令和5年12月3日には今年度初めて子育てフェアで講演会を開催、健康に関心を持ってもらいたい世代に向けた講話と体操実技を実施した。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	成果指標	地域での健康づくりを主とした互助活動の意義を理解する（講義内容が理解できた人の割合）	目標	80	80			%
					実績	90	90			
		2	活動指標	「50歳からのさいわい健幸ブック」の配布数	目標	—	1000			%
					実績	—	1000			
		3	成果指標	交流会参加者の満足度（満足と回答した人の割合）	目標	90	—			枚
					実績	100	—			
		4	成果指標	地区版シニアカがやき情報の配布数	目標	1,500	—			
					実績	1,400	—			

評価（Check）				
事業を取り巻く社会環境の変化		川崎市健康増進計画「第2期かわさき健康づくり21」では、生涯を通じた主体的な健康づくり、市民の健康づくりを支える環境整備を推進し、若年層の生活習慣病の啓発や行動変容につなげるための場や機会の充実、健康づくりに関するボランティア活動や地域社会活動への参加の促進などが課題になっています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） 5 年度 □ 今後実施（ 年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		健康づくり推進会議での各方面、委員からの意見をもとに、50歳以降だけでなく働き盛り世代を対象とした健康づくりの普及啓発実施の必要性を確認し、子育てフェアでの講演会を初めて開催しました。「50歳からのさいわい健幸BOOK」を、ホームページだけでなく市政だよりや保健福祉情報さいわいへの掲載を通し、広く区民に普及啓発ができました。今後も50歳以降だけでなく、広く健康づくりの普及啓発を行い、年1回健康づくり普及啓発講演会を開催します。		
		評価項目		評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域交流や支え合いの促進に向けて、地域活動の担い手として期待される世代に対し、互助・互助の取り組みや社会参加、健康づくりの普及啓発は必要と考えます。また、生活習慣病のリスクは依然として高く、引き続き予防に関する普及啓発を行う必要があります。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	50歳以降だけでなく働き盛り世代を対象に健康づくりに関心がある方への普及啓発で、地域の健康づくり活動の意義、動機づけになっています。様々な媒体や場面を活用し、より幅広い世代に向けた普及啓発を行うことができました。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	健康情報、趣味や学びの生きがいづくり、ボランティア活動、地域交流、介護や認知症など、50歳以降に必要な情報で構成していますが、より幅広い世代に向けた健康づくりの普及啓発事業が継続できるよう、次年度改訂を行います。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	「50歳からのさいわい健幸BOOK」を改訂し、50歳以降だけでなく幅広い世代に向けた健康づくりの普及啓発に取り組みます。健康づくり普及啓発講演会についても、今年度子育てフェアで実施しましたが、今後もあらゆる場面を活用して実施し、住み慣れた地域で主体的に健康維持・増進活動及び仲間づくりの活動に取組めるよう支援していきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	10	05	地域の保健福祉情報発信事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		福本、森崎	62881

事業の概要									
事業の概要		区民の健康的な生活のため、区における地域包括ケアシステムや保健福祉に関する最新情報を区民へ提供する必要があります。地域包括ケアシステムや保健福祉に関する情報・制度の周知として、情報誌「保健福祉情報さいわい」を発行し、区内全戸に年2回ポスティングによる配布及び区内公共施設での配布により情報を発信します。							
実施期間		事業開始年度 平成18年度		事業終了年度 —		予算中事業		健康福祉まちづくり事業	
地域の課題と現状		大規模集合住宅の建設により子育て世代を中心とした人口増加が続く一方、高齢化も進んでいる現状の中、子どもから高齢者まで全ての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの構築に向けた取組が必要であり、区民に対して継続的に保健福祉に関する情報を発信します。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,795(2,153)	2,153	2,454	2,536				
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
	一般財源	2,795(2,153)	2,153	2,454	2,536				

計画 (Plan)	
事業の目的	保健福祉に関する情報を的確かつ効果的に発信することで、保健福祉に関する区民の関心及び理解を深めるとともに、各課が開催する事業及び講座等の利用促進並びに制度の周知を行います。
今年度の事業の取組内容	保健福祉に関する情報発信の手段として、情報誌「保健福祉情報さいわい」(A4、8ページ、フルカラー)を発行し、ポスティングによる全戸配布を行います。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		「保健福祉情報さいわい」を年2回(11月号・2月号、各84,000部)発行し、全戸配布(ポスティング)等を行いました。各号に地域福祉活動団体が抱く地域活動への想いなどを掲載した結果、特集した団体へ活動内容に関する多くの反響が寄せられるなど、情報発信を通じて、地域福祉への関心の拡大及び担い手確保に向けた機運の醸成等につなげることができました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指標	「保健福祉情報さいわい」の発行回数	目標	2	2			回
					実績	2	2			
		2			目標					
					実績					
		3			目標					
					実績					
		4			目標					
					実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域における様々な課題を解決するため、子どもから高齢者まで全ての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの構築が重要視される中、区民に対し継続的に保健・福祉に関わる情報発信が必要です。特にコロナ禍の際の地域活動の停滞状況を経て、地域とのつながり・顔の見える関係の重要性が再認識されつつある中、各戸配布の情報誌によって、地ケアに関するイベントや講演会等の開催をはじめとした、地域の人々がつながるきっかけとなる情報を積極的に発信することへの重要性は高まっている状況にあります。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 4 年度 □ 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度:掲載内容を興味し内容を凝縮させた上で、発行回数を年3回から年2回に変更しました。併せて、ホームページやSNS等の多様な媒体の活用も進め、必要かつ適切な量・質の情報発信を確保しながら、経費削減につなげることができました。 R3年度:コミュニティ施策におけるまちの広場につながる地域福祉活動団体を新たに特集することで、地域福祉活動の担い手拡大につなげる取組を行いました。 R2年度:イベント情報を中心とした内容から、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策など、区民が必要とする保健福祉に関する情報や制度などの内容へと紙面構成を見直し、写真やイラスト等を活用してわかりやすく伝わるよう工夫しました。	
評価項目			評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている a
	評価の理由	転入者の増加やIT機器に不慣れな方にも的確に情報を届ける観点から、区民に対し継続的に保健・福祉に関わる情報発信をする手段としてニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない a
	評価の理由	特集した記事に対しての区民からの反響がある等、地域福祉活動団体の課題となっている担い手の確保や高齢化といった課題に対しての成果が上がっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある b
	評価の理由	市政だより幸区特別号での特集と連携し、保健福祉情報さいわいとしての発行部数の更なる減少を図り一層の経費削減につなげる等、事務改善の検討の余地はあるものと考えます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	保健・福祉に関わる情報や地域福祉活動の担い手確保の課題を解決するための情報を発信する効果的な手段として、事業目的や方向性を維持しながら継続することが適切であると考えています。一方で、市政だより幸区特別号での特集と連携するなど、区としての効率的・効果的な広報業務の実施に向けた取組について、今後引き続き検討します。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	10	35	さいわい動物愛護推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635450		地域みまもり支援センター 衛生課		肥後	62561

事業の概要										
事業の概要		動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑止することを目的としてリーフレット及びペットの災害対策のための「ペットの防災手帳」を配布するとともに、区民の相談に対応するため種々の啓発用プレートを作成・配布します。また、子ども向け動物愛護啓発小冊子「ワンコからのてがみ」を作成し就学児に配布します。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		健康福祉まちづくり事業				
		平成17年度	—							
地域の課題と現状		動物に係る苦情相談数は年間300件以上にのぼります。飼い主あて適正飼養について指導を実施するのみではなく、動物を取り囲む幅広い対象に対し、動物の習性等について普及啓発し理解を深め、動物の遺棄を防ぎ、地域住民が動物とともに安心して暮らせるよう、様々な世代に動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を行い、住みよい街幸区を推進していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	177	166	177	143					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	177	166	177	143				

計画 (Plan)									
事業の目的			動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、区民の理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑止し、人と動物の共生を図ります。						
今年度の事業の取組内容			・動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」の増刷、配布 ・地域的な問題となりやすい犬の糞尿処理や猫の適正な管理について、飼い主等への啓発用プレートを作成、配布 ・各種行事等で糞取り袋や動物愛護及び適正飼養に関するリーフレットを配布し、啓発活動を実施 ・総合防災訓練にてペットの同行避難等に関する普及啓発を実施						

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」:1,518冊配布 ・動物愛護及び適正飼養に関するリーフレット:1209枚配布 ・動物愛護普及について、9月に区役所1階ロビーにてパネル展示等を実施、11月に駅前及び公園等でリーフレット配布 ・9月、2月の幸区総合防災訓練においてペットの同行避難に関する普及啓発を実施								
数値で把握することが可能な取組			指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	親子動物愛護教室の実施（参加者）	目標	20	—	—	—	人
				実績	中止	—	—	—	
	2	活動指標	動物愛護及び適正飼養に関するリーフレット配布（枚数）	目標	1200	1200		枚	
				実績	2103	1209			
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、住みよい街幸区を推進していくために動物愛護の普及啓発は今後も必要であると考えますが、デジタル化を考慮し、実施方法は工夫の余地があると考えます。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 5 年度 □ 今後実施(令和 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和5年から動物園の一部建て替え工事を実施するため、現地での普及啓発事業「親子動物愛護教室」に代えて、動物愛護週間や防災訓練等を通じて「ワンコからのてがみ」を配布するなどし、こども向けの普及啓発事業を実施しました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、動物愛護普及啓発は今後も必要であると考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	動物愛護及び適正飼養に関するリーフレットを広く配布することにより、住民からの問い合わせや情報提供が寄せられ、地域での効果的な指導につながった事例が複数ありました。また防災訓練での啓発は動物を飼っていない住民も関心が高く、住みよい街づくりに貢献していると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	デジタル化を考慮し、実施方法は工夫の余地があると考えます。		

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ．現状のまま継続 Ⅱ．見直し・改善のうえ継続 Ⅲ．事業終了	Ⅱ	ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、動物愛護普及や啓発は今後も必要であると考えます。しかしながらデジタル化を考慮し、実施方法は工夫の余地があると考えます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	05	総合的なこども支援ネットワーク事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		福本、松浦、森崎	62881

事業の概要										
事業の概要		安心して子育てできる社会を目指し、区内の子ども支援機関及び関係機関の連携強化が求められることから、情報交換、相互協力及び支援策の検討・推進を図るための会議を通して、子育て支援のネットワークを構築します。部会を設置して、子ども子育て講演会や子育てフェア、学齢期児童向け情報誌の発行等を行います。								
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	こども・子育てまちづくり事業			
実施期間		平成18年度		—						
地域の課題と現状		複数の新規大型マンションの建設に伴い、子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を引き続き構築する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	2,295	1,626	2,430(2,330)	1,951					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	2,295	1,626	2,430(2,330)	1,951				

計画 (Plan)	
事業の目的	子育て家庭の育児不安を解消し、安心して子どもを育てることができる社会を目指して、地域全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。
今年度の事業の取組内容	幸区こども総合支援ネットワーク会議及び3つの部会「こどもの地域包括ケアシステム部会」「みんなで子育てフェア部会」「こども情報ネット部会」を開催するとともに、講演会、フェア、情報誌発行等を実施します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・全体会及びこどもの地域包括ケアシステム部会を、区内子育て団体の参加も呼びかけ、ハイブリッド方式で1回、書面形式で1回開催しました。また、ヤングケアラーや子どもの貧困といった、社会的に関心の高いテーマを選定した上で、子育てに関する講演会を2回、ハイブリッド方式で開催しました。 ・みんなで子育てフェア部会を4回行い、スタンプラリー形式から終日イベント形式に変更した上で12月に子育てフェアを開催しました。多くの子育て関係機関と連携しつつ準備・運営を行ったほか、21の区内企業・団体からの協力を得ることができ、子育てフェアの取組を通じて、多様な主体の子育て施策への参画を促進することができました。 ・こども情報ネット部会を3回開催した上で、「こども情報ネット」を3回発行し区内小中学生等に配布しました。また、子ども達がキッズライターとなって、こども文化センターやSDCを取材した記事を掲載する企画を展開しました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	講演会等開催回数	目標	2	2			回
				実績	2	2			
	2	成果指標	講演会等参加者満足度	目標	80	80		%	
				実績	100	92.9			
	3	活動指標	みんなで子育てフェア 参加者数	目標	800	800		人	
				実績	1,056	約1,100			
	4	成果指標	みんなで子育てフェア 参加者満足度	目標	80	80		%	
				実績	94	91			

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が地域で孤立化せずに安心して子育てができる環境を引き続き構築する必要があります。
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 5 年度 □ 今後実施(年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R5年度:対面によるつながりや顔の見える関係の重要性に改めて着目し、みんなで子育てフェアを、スタンプラリー形式から終日イベント形式に変更しつつ、これまで協力を得てきた企業・団体と一層の連携・協力を図りながら実施し、子育て支援団体の各取組を周知できたほか、地域の魅力の再発見と地域のつながりづくりに貢献できました。 R4年度:みんなで子育てフェアスタンプラリーにおいて、新たにグルメスポットを導入するなど、より多くの企業・団体の協力を得ながら取組の充実を図ることができました。 R3年度:こども総合支援ネットワーク会議と部会1「子どもの地域包括ケアシステム部会」は構成員が重複する団体が多く、協議内容も類似していることから、構成員の参加の負担の軽減と事業目的達成に向けた効率的な実施の観点から統合しました。 R2年度:みんなで子育てフェアの開催にあたり、密にならずに地域でのつながりを作るイベントとして、15団体・企業からの協賛を得てスタンプラリー形式に変更し、参加者数と満足度の向上につなげました。

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が地域で孤立せずに安心して子育てができる環境を構築する必要があります。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	講演会や子育てフェアに対する満足度は高く、参加者から寄せられた声からも、各取組が子育て支援の環境づくりに貢献できていることが窺えることから、事業の成果は上がっているものと考えられます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	会議開催のスリム化や事業支援業務委託仕様書の見直しによる事務負担軽減など事務改善の余地はあるものと考えており、引き続き検討を進めていきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	子ども子育て分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、関係機関と意見交換や情報共有を行い、子ども子育て支援機関のネットワーク強化や、企業等も含めた地域全体で子育てを支援する環境づくりを継続して実施していきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	10	こども・子育て支援事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課			福本、松浦、森崎	62881

事業の概要										
事業の概要		子育て交流の場の提供、子育て関連情報の提供、子育て支援関係機関・団体の交流等各種事業を通じ、区民のこども・子育て支援に取り組みます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	こども・子育てまちづくり事業			
		平成18年度		—						
地域の課題と現状		大型マンションの建設等に伴い、子育て世帯の増加が続く中、核家族の増加や地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできるように、今後も引き続き、区民や関係団体との良好な連携関係を継続しながら子育て支援を継続していく必要があります。また、地域活動をする方たちが高齢化し、若い世代の担い手が不足していることから、地域活動への興味を深めるための取組が必要となっています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
	事業費	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	国庫支出金	2,571(2,321)	1,868	2,660(2,070)	1,695				
		市債								
		その他特財								
		一般財源	2,571(2,321)	1,868	2,660(2,070)	1,695				

計画（Plan）	
事業の目的	子育て中の親子が孤立することなく、安心して子育てができ、地域全体で子どもや子育てを支援できるよう、こども・子育て支援事業を実施します。
今年度の事業の取組内容	子育て情報誌「おこさまっぷさいわい」を、区民が参加する編集会議での編集作業をふまえ発行します。 こどもの外遊び事業として、区内公園での外遊びと交流の場を提供します。 「さいわいはっぴーボランティア」(はび☆ボラ)として、中高生の地域でのボランティア活動経験を増やす取組を進めます。 日吉出張所内のおやこであそぼうランドにて、子育て団体向けに部屋の貸出を行います。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・子育て情報誌「おこさまっぷさいわい」を、編集会議委員（区民等）による編集作業を踏まえ、広告掲載による収入を確保しつつ6,800部発行しました。 ・こどもの外遊び事業は、区内の公園等6カ所で49回実施した他、ラゾーナ川崎プラザにてイベントを3回実施するなど、多様な場所での取組展開を推進しました。また、新小倉地区や鹿島田地区に建設された大型マンションへ多くの子育て層が転入する中、公園での外遊びと交流の場の提供を通じて、子育て世代が地域で孤立することの無いよう取組を進めました。講座は子育てや外遊びに関する内容で3回実施することができました。 ・はび☆ボラは、区民祭など各種イベントの運営補助や、地域子育て支援センターでのボランティアなど、多様なボランティア活動の場を提供することができました。 ・昨年度までコロナ禍で閉鎖されていた「日吉おやこであそぼうランド（日吉合同庁舎2階）」について、予約のオンライン化等、運用手法の改善を図った上で、円滑に貸し出しを再開させることができました。							
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	成果指標 「おこさまっぷさいわい」の発行部数	目標	6,800	6,800			部
				実績	6,800	6,800			
		2	活動指標 こどもの外遊び事業の参加者数	目標	1,800	1,750			人
				実績	1,706	1591			
		3	成果指標 中高生の地域ボランティア（はび☆ボラ）参加者数	目標	50	60			人
				実績	115	65			
		4		目標					
				実績					

評価（Check）	
事業を取り巻く社会環境の変化	新規大型マンションの建設に伴い、子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を引き続き構築する必要があります。
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 5 年度 □ 今後実施(年度から) R5年度:区内の子育てサークルに対し外遊びに関するノウハウ習得を支援するなど、子育て支援に資する人材(こどもの外遊びの活性化や子育て支援を行う担い手)の育成に一層注力しながら、こどもの外遊び事業を展開しました。 R4年度:R3年度からの大改訂作業に基づき、内容を一新したR4年度版おこさまっぷを発行しました。 R3年度:R3年度版のおこさまっぷさいわいの発行にあたり、新たに広告収入を導入し予算執行額の圧縮を図りました。また、外遊び事業では、参加者と実施場所の拡大を見据えて、ラゾーナ川崎プラザと連携した取組を新たに展開するなど、効果的な事業実施に向けた工夫を行いました。

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を構築する必要があります。また、地域活動の担い手が課題となっていることから中高生の地域活動への参加を促進する必要があります。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	外遊び講座に関しては、参加者アンケートの結果、約9割(未確定)の方から「良かった、参考になった」との回答を得ており、満足度の高い取組となっています。また、はび☆ボラについて一定の参加者数を確保できており、若者の地域活動への関心向上に貢献できているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	おこさまっぷさいわいの電子書籍化による利便性の向上や広告料収入の拡大等による事務改善については、今後検討の余地があります。ボランティア実施に関する広報を工夫することで、中高生のボランティア拡大に向けた取組を進める必要があります。		

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	こども・子育て分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、自助・互助の取組の強化を目指し、子育て団体の相互交流の場や関連情報の提供、外遊びなどの地域人材の育成を通じ、区民のこども・子育て支援に継続して取り組みます。一方、「おこさまっぷさいわい」における事務改善の可能性について、今後引き続き検討します。また、若者の地域活動への参加を拡大するため地域でのボランティアメニューの拡大を進めます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	15	保育所等活用事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携			飯沢・小野	62831

事業の概要

事業の概要		地域の子ども・子育て支援の充実・強化として、父親の育児参加の促進や子育て関連情報の提供を行い、区民の子育て支援を推進するとともに、地域包括ケアシステムを見据えた地域の子育て力の向上及び人材育成を推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業	
		平成23年度		—					
地域の課題と現状		マンションの増加に伴い、子育て世帯が急増しており、子育ての不安や虐待ケース等があり、地域コミュニティの希薄化が深刻な問題となっています。また、保育所や地域子育て支援センター等を活用した子育て支援や、子育て支援を担う人材育成、連携が必要とされています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	639	266	363	273				
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
財源内訳	一般財源	639	266	363	273				

計画 (Plan)	
事業の目的	地域における育児力の低下に伴う地域子育て家庭への支援強化及び地域の保育力の向上を図ります。また、保育所や地域子育て支援センター等を活用した子育て支援や、子育て支援を担う人材育成、連携を推進します。
今年度の事業の取組内容	・地域の子育て支援の機能強化のための各種講座の実施及び情報発信のイベントカレンダー「お散歩に行こうね」を発行し、子育て支援に務めます。また、取りこぼしのない子育て支援のために、民間保育所への更なる子育て支援への取り組みを促し、区内における子育て支援の場所の拡充を目指します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・コロナの5類移行に伴い、開催場所や定員等を増やしなが、事業を行いました。特に父親の育児参加促進を目的としたパパッとサタデーは、地域のボランティアや幸区内の保育園の協力を得ることで、幸区内の子育て支援への取り組み施設の拡充を図ることができました。 ・子育て世帯に対し、子育てイベント情報を提供するため、「お散歩に行こうね」を毎月発行しました。								
数値で把握することが可能な取組		指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
		1	成果指標	子育て世帯の各種講座の実施(参加者数) (パパッとサタデー講座、各種子育て講座等)	目標	400	700			人
					実績	744	(767)			
		2	活動指標	子育て世帯を対象とした情報発信 (子育てイベントカレンダー発行部数)	目標	6,000	6,000			部
					実績	6,000	(6000)			
		3	成果指標	保育園児との世代間交流の実施(参加者数) (みんなで遊ぼう)	目標	100	—	—	—	人
					実績	0	—	—	—	
		4			目標					
					実績					

評価 (Check)									
事業を取り巻く社会環境の変化			コロナが5類に移行し、少しずつ人が集まるイベントへの参加に賑わいが出てきていますが、コロナ禍で人と接することが少なくなっていた子育て世帯に向けては、さらに支援が必要です。子育て支援を担う人材の育成や保育所、地域子育て支援センター等の連携の強化も必要とされています。						
事業の見直し・改善内容			☐ 実施 (直近) 令和 年度 ☐ 今後実施(令和 年度から)						
具体的な見直し・改善内容 (※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載)									
評価項目								評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか						a. 薄れていない b. 薄れている	a	
	評価の理由	子育てに不安を抱えている人も多く、子育て支援の必要性は今後も高まるため、事業のニーズは高いと考えます。							
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか						a. 上がっている b. 上がっていない	a	
	評価の理由	事業参加者のアンケートはほぼ満足との回答を得ており、回数を重ねるものは参加率も高まる傾向にあるため、事業の効果があると考えます。							
効率性	事業の成果を維持しながら、業務の見直し等による経費削減やWEBの活用を含めた事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。						a. 可能性はない b. 可能性はある	a	
	評価の理由	すでに申し込み方法や広報においてWEBの活用を進め、一定の改善成果を得ています。							

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ．現状のまま継続 Ⅱ．見直し・改善のうえ継続 Ⅲ．事業終了	Ⅰ	国の子育て支援の動向に注視しながら子育て世帯に対する各種支援や適切な情報共有を行い、今後も子育て支援を充実・強化します。また、子育て支援の担い手の人材育成や連携にも取り組みながら今後も継続的に実施します。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	25	児童虐待防止・こども相談支援事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635150		地域みまもり支援センター 地域支援課		小原・下田・稲垣・小野寺・赤岩	62844 62814

事業の概要

事業の概要		こどもたちが健やかに地域生活を送るための環境づくりが課題であることから、協議会や学習会の開催を通じて、要保護児童・要支援児童等の早期発見や発達に課題のあるこどもとその保護者の支援を行う体制づくりを推進します。 また、こども相談窓口を設置し、こどもに関する各種相談を行うほか、要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議を開催し、講演や事例検討を通じ、各関係機関と連携を図れるようにするとともに、児童虐待防止について区民への啓発を進めます。								
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業		
実施期間		平成26年度		—						
地域の課題と現状		地域のこどもが地域の中で健全に成長していくために、また子育て家庭における虐待を未然に防ぐとともに早期に対応していくため、身近な区役所で相談業務等を実施することが求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費	751	601	743	623				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
財源内訳	一般財源	751	601	743	623					

計画 (Plan)

事業の目的	こどもやその家庭が抱える問題を早期に発見し対応することで重症化を防ぎ、また的確な支援を継続的に行うことで問題の再発を予防します。また、児童虐待予防や要保護児童の発見に地域で取り組める体制を構築します。
今年度の事業の取組内容	こども相談窓口リーフレットを増刷し、区役所窓口での母子手帳交付時等での配布に加えて、区内の小中学校の1年生全員や関係機関へ配布し、普及啓発を行います。また、要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議にて代表者部会を年2回、研修会を年3回開催します(会場開催やオンライン講演会など)。研修会ではグループワーク等も行い、関係機関どうしの顔の見える関係づくり及び出席者の相談援助技術の向上を図ります。さらに、子ども発達支援保護者学習会を年9回開催し、保護者の学びの場を提供します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に 対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	こども相談窓口の案内のリーフレットの内容を一部改訂し、増刷して、区内の小中学校の1年生全員に配布した。また、子どもを支援している関係機関にも配布し、相談窓口の周知・啓発を行いました。要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議にて代表者部会を2回、研修会（講演会やグループワーク等）を年3回開催し、要対協の構成機関が顔の見える関係を構築するとともに、知識の向上やスキルアップ、連携の推進を図りました。一方、集団への適応に心配のある親子に対し、子ども発達支援保護者学習会を年9回開催し、保護者の学びの場を提供しました。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	子ども発達支援保護者学習会参加数	目標	170	144			人
				実績	142	175			
	2	成果指標	児童虐待相談・通告受理件数	目標	—	—		件	
				実績	189	—			
	3	成果指標	要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議 研修会の参加者数	目標	—	120		人	
				実績	—	158			
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く 社会環境の変化		児童虐待に関する報道が取り上げられる中、幸区においても児童虐待の相談・通告件数は増加傾向で、相談内容も複雑・多様化してきています。令和6年度以降も、継続した支援体制の構築と子ども家庭総合支援拠点としてのさらなる体制強化を図ることが求められます。また、児童虐待の要因として、こどもの発達課題が関係している事例も多く、虐待予防の観点からより有効な対策が望まれています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる 場合は記載				
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区で対応する児童虐待等の件数は年々増加傾向にあり、また多様化しているため、事業の必要性はますます高まっています。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議研修会の参加者数が当初の目標数よりも増えており、これまで継続的に実施してきた児童虐待防止に対する普及啓発活動により、関係機関の意識の高さや取り組みの向上につながっています。また、子どもの発達学習会では、実施後のアンケート調査で98.5%の方が「参考になった」「まあまあ参考になった」と回答しており、関心の高いテーマを2つ取り上げて実施したことが参加者の満足度につながっており、事業の有効性があると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	児童虐待を早期に発見して適切な支援に繋げることや重症化を予防すること、より良い課題解決のために関係機関が連携し地域のネットワークを構築するためには、継続して普及啓発することが必要と考えます。また、要保護児童対策地域協議会及び子ども発達支援保護者学習会の取組については社会情勢や環境の変化に適宜対応しながら改善を図っていきます。		

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	特定妊婦や児童虐待ケースの相談・通告は増加傾向であり、相談内容も多様化している中で、本事業の継続実施の必要性は高まっています。今後も社会情勢や区民のニーズの変化を柔軟に捉え、要保護児童対策地域協議会及び子ども発達支援保護者学習会の実施方法や内容を検討し、事業を継続実施することで、妊娠期からの一貫した児童虐待の予防や早期発見・早期対応を促進していくとともに、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点としての一体的運営の体制整備を行っていきます。また、本事業を有効活用し、地域における児童家庭相談支援機能の充実に取り組みます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	30	幸区待機児童対策事業			
担 当			所 属 コー ド		所 属 名		担 当 者	連 絡 先	
			633250		地域みまもり支援センター児童家庭課		落 合	62695	

事業の概要

事業の概要		多様な保育事業に関する情報提供を行い、保育の選択肢を広げ、利用者に対するきめ細やかな相談・支援を実施して待機児童の解消を図ります。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業	
		平成28年度		—					
地域の課題と現状		多様な保育ニーズに対応するためには、認可保育所以外の保育サービスなどへ保育の選択肢を広げることやきめ細やかな利用者支援が求められます。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,642	1,422	1,635	1,387				
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
財源内訳	一般財源	1,642	1,422	1,635	1,387				

計画 (Plan)

事業の目的	幸区における待機児童対策として、保育施設を効果的に紹介します。 動画による説明会を配信し、利便性向上を図ります。
今年度の事業の取組内容	川崎認定保育園リーフレットの内容を更新するとともに、電子媒体での情報提供を活用するなど、経費を削減しつつ効果的に事業を実施します。また、利用申請者が自宅等において保育施設の様子を知ることができる施設紹介動画、入所申請説明会動画を作成し、区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
取組内容の実績等	・保育園の利用申請、相談及びアフターフォローにおいて多様な保育事業の紹介ツールとしてリーフレットや保育園紹介映像を活用し、保護者にわかりやすい説明を行いました。 ・更新したリーフレットの内容は区のホームページに掲載し、効果的に広く情報提供しました。 ・保育所施設紹介映像、保育所申請説明会映像は、区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信しました。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標				R05年度	R06年度	R07年度	R08年度	単位
	1			目標						
				実績						
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
				実績						
	4			目標						
				実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	川崎駅西口周辺の保育所等利用申請者数は減少傾向ですが、小倉、加瀬周辺の申請者は増加傾向にあります。申請者に対して、認可保育所等の既存施設を有効に活用しつつ、認可保育所以外の保育サービスなどの周知が重要であり、区民サービスの向上からも引き続き窓口等で効果的なツールが必要です。								
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直直) 2 年度 □ 今後実施(年度から)								
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	認定保育園の紹介ガイドブック作成から、ホームページ上でのリーフレットによる情報提供をすることによって、経費を削減しました。利用者が自宅等において保育所等の状況を知ることができるよう保育所施設紹介映像や申請手順等の説明会映像を区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信しました。								
評価項目					評価				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか				a. 薄れていない b. 薄れている		a		
	評価の理由				保育所施設案内、入所申請の案内は、引き続き情報提供が必要です。				
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか				a. 上がっている b. 上がっていない		a		
	評価の理由				多様な保育事業の紹介ツールを活用することなどにより保育事業への認識は向上しており、成果は上がっていると考えられます。				
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。				a. 可能性はない b. 可能性はある		b		
	評価の理由				区民のニーズを把握しながら、より効果的な情報提供方法・媒体の検討をしていきます。				

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	待機児童解消に向けては、今後も継続した取組が必要です。また、YouTube配信など新たな手法を取り入れつつ、引き続き利用者に向けた多様な保育事業に関する情報提供等を実施していきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)【案】

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	30	地域コミュニティ推進事業			
担 当			所属コード			所属名		担当者	連絡先
			631700			まちづくり推進部 地域振興課		穴澤	62351

事業の概要									
事業の概要		「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、町内会・自治会等との連携の推進や、町内会・自治会への加入促進を図るなど、地域コミュニティ活性化に向けて取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域コミュニティ活性化事業		
		平成24年度		—					
地域の課題と現状		・区内の町内会等への加入率が近年減少傾向にあり、役員の後継者不足や負担軽減などの課題解決が求められています。 ・新川崎・鹿島田駅周辺など、大規模マンションの建設が進む地域では、新たに転入した区民と以前から暮らしている区民との交流や、地域でともに支え合う意識の醸成などが求められています。 ・身近な課題を地域で解決するためには、住民相互の連携による自主的で活力に満ちた地域コミュニティの実現が必要であり、町内会・自治会を始めとした市民活動団体の取組を支援したり、多様な主体の連携を主導することによって、市民創発による課題解決を図る「新たなしくみ」が求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,948	1,809	2,172	2,100				
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,948	1,809	2,172	2,100				

計画 (Plan)	
事業の目的	地域コミュニティの活性化に向けて、町内会・自治会の地域活動の支援を行います。
今年度の事業の取組内容	・町内会・自治会加入促進に向けて、多様な団体との連携を検討し、課題解決のための取組を実施します。 ・地域活動を支える人材の育成、地域コミュニティの活性化等を目的とした「町内会・自治会活性化講座」を実施します。 ・地域において人と人とのつながりをつくるため、地域への関心や関わりが薄い層に対して地域活動に参加しやすいきっかけを創出することを目的とした「さいわい縁むす日」事業を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・従来の取組に加え、幸区民祭でパネルを用いた町内会活動のPRを行い、その場で加入申込みができるブースを設けるなど新たな取組を行とともに、町内会のイベントを積極的に取材し、インスタグラムや区町連HPで紹介するなど広報に注力しました。 ・地域活動の活性化を促す町内会・自治会活動応援補助金について、積極的な声掛けや、好事例の紹介、手続に係るきめ細かいフォローを行う等により、活用率の向上を行いました。その結果、市内で唯一100%の活用率を達成しました。 ・地域で人と人とのつながりをつくるため、地域への関心や関わりが薄い層に対して地域活動に参加しやすいきっかけを創出することを目的とした「さいわい縁むす日」事業を行い、周辺町会、商店街、学生等も巻き込みコミュニティの活性化を行いました。 ・区町連やスポーツ推進員も参画する幸区ポッチャ大会を開催し、バラスポーツを通じた地域コミュニティの活性化を図りました。 ・年齢や障害の有無を問わず町内会の研修旅行を楽しめるよう「アクセシブルツーリズム」をテーマに、専門家を講師にお招きした活性化講座を開催しました。その結果、直後に実施された幸区町内会連合会の視察研修では、前年度から大幅に参加者を増やすことができました(R4:17人 ⇒ R5:27人)。							
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指 標	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
		1	活動指標 町内会・自治会活性化講座 参加者数	目標	100	100			人
				実績	95	34			
		2	活動指標 町内会・自治会加入率	目標	66	66			%
				実績	66	67			
		3		目標					
				実績					
		4		目標					
				実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		社会意識の変化や高齢者・若者の単身者世帯の増加により、町内会・自治会への加入率が減少傾向が続いている。良好な地域社会の維持及び形成に果たす町内会・自治会の役割は依然として非常に大きく、地域コミュニティの安定した運営や活性化に向けて、町内会・自治会の担い手の育成や加入促進を支援する必要があります。		
事業の見直し・改善内容		☐ 実施 (直近) 年度 ☐ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載				
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	大規模マンション建設等による新たな地域コミュニティづくり必要性、また地域の課題解決、見守りや災害時における自助・互助の関係づくりなど観点からも、本事業の必要性は高いものと考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	幸区の町内会・自治会の加入率は、全市で一番高く、昨年よりも増加したものの、長期的には減少傾向にあります(R5.4時点、全市平均:56.9%、幸区:67.0%)。町内会・自治会活性化講座については、引き続き町内会・自治会の課題やニーズを捉えながら、新たな担い手の育成や活動支援、未加入世帯への加入促進等、更なる活性化等に向けた取組が必要です。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	加入促進チラシ等、広報媒体の活用方法を見直すとともに、町内会・自治会が多様な主体と連携し、活動の活性化に向けた機運醸成を図るなど、町内会・自治会が主体的に取り組みを進めて行けるよう、改善を進めています。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	「川崎市町内会・自治会の活動の活性化に関する条例」の趣旨に鑑み、地域社会において重要な役割を担う町内会・自治会への理解促進や役員等の人材育成のための講座の実施、さらには新規大規模マンションへの自治会の設立支援など、今後も社会環境の変化に応じた取組を検討し、地域社会の活性化に向けた取組を推進していきます。また町内会・自治会の課題やニーズを捉えながら、新たな担い手の育成や未加入世帯への加入促進等、更なる活性化等に向けた取組が必要です。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	10	市民活動等支援事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		松村	62355	

事業の概要										
事業の概要		幸区内の市民活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことを支援しています。そのために、幸区市民活動コーナーの管理運営を利用団体や区民と協働で行うこと、市民活動を一般の市民にも知ってもらう発表の場として幸区市民活動交流イベントを開催しています。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業				
		平成10年度	—							
地域の課題と現状		現在は、かわさき市民活動センターが川崎市全体の中間支援組織として活動資源の需要と供給を結びつけるとともに、市民活動の支援にかかる様々な役割を担っています。今後は、区内の市民活動と区民の主体的な取組を促進し、市民活動団体が自立して主体的に活動できるよう環境を整備していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度 財源内訳	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費	1,943	1,575	1,943	1,264				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財	120	81	120	80				
一般財源		1,823	1,494	1,823	1,184					

計画 (Plan)									
事業の目的			幸区で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことを目的としています。						
今年度の事業の取組内容			区の市民活動の拠点となる幸区市民活動コーナーを利用団体・区民と協働で運営します。また、SDCとの連携を支援します。 市民に活動内容を知ってもらい、活動団体同士がつながり、活動を広げるための幸区市民活動交流イベント「はび☆フェスさいわい」(年1回)を開催します。						

実施結果（Do）										
上記取組内容に 対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		・区民や利用団体等で構成する利用者の会との協働による幸区市民活動コーナーの運営及び幸区役所展示コーナーの運営により、市民活動団体への活動拠点の提供や広報等を支援しました。 ・市民活動団体による市民活動コーナーを利用した区民向けのイベントが複数回実施され、市民活動の活性化につながりました。 ・1月20日（土）の幸区市民活動交流イベント「はび☆フェス さいわい」は、イベント参加団体で実行委員会を組織し、イベント内容を企画、地域教育会議主催の「ニューイヤーフェスタ」と同日開催し、参加者同士の交流促進や新たなつながりも生まれました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
		1	成果指標	幸区市民活動コーナーの利用登録団体数	目標	50	50			団体
					実績	46	45			
		2	成果指標	幸区市民活動交流イベントの来場者数	目標	350	350			人
					実績	340	400			
		3			目標					
					実績					
		4			目標					
					実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		市民および市民団体が主体的に課題解決に向けた取組に関わりを持ち自立を促すとともに、行政には課題解決に向けたコーディネートを行う役割が重要であり、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき事業を推進していくことが求められます。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		公共施設の地域化の考え方を踏まえ、市民活動コーナーについてイベント利用ができるよう運営方法の見直しを図りました。	
評価項目			
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている
	評価の理由	地域課題が多様化・複雑化する中、区内で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことは重要であると考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない
	評価の理由	幸区市民活動コーナーの利用登録団体数は目標値を下回ったものの、新規の加入団体があったことに加えて、幸区市民活動交流イベントにも新規の参加者があり、参加者同士の交流促進や新たなつながりも生まれたこと等から、一定の成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある
	評価の理由	幸区市民活動コーナー及び幸区市民活動交流イベントについては、市民活動団体と協議し団体による主体的な運営を行えるよう、適宜見直しを進めています。	

改善 (Action)									
今後の事業の方向性			方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性			
			Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅱ	市民活動コーナーの運営方法を利用者の会と協議しながら運営方法など適宜見直しを図り、市民活動団体の自立を促しました。今後も自立した運営に向け行政側が様々な団体の活動内容等を把握し、コーディネート力を高めていきます。また、市民活動交流イベントにおいても、実施内容の見直し、改善を図りながら更に団体間の交流や地域コミュニティの活性化に向けて事業を進め、新たな登録団体の獲得に向けたPRを行っていきます。			

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	25	幸区多文化共生推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課			二宮・松本	541-3910

事業の概要										
事業の概要		地域の外国人市民が年々増えている中、異なる文化をもつ市民同士の相互理解を深め、多文化共生の意識を高めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域コミュニティ活性化事業			
		平成24年度		—						
地域の課題と現状		幸区内の外国人市民数は増加傾向にあり、日本人と、文化の違いを越えて共に生きる地域社会を作る必要があります。そのため、地域の多文化共生意識を醸成する取組が必要です。								
予決算 (単位:千円)	年度 財源内訳	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費	613	520	613	417				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財 一般財源	613	520	613	417				

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区に住む外国人市民及び日本人市民が、お互いの文化の相違を認め合い、同じ地域で共に生きる社会を創ります。
今年度の事業の取組内容	多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、課題の解決に向けた事業として、幸区役所「外国人市民情報コーナー」の助言やサポートを行います。多文化交流会については外国人市民と日本人市民の交流を中心に開催していきます。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	外国人市民を含む多文化共生推進事業実行委員会の企画・運営により、多文化交流会（フェスタ）を開催しました。外国の家庭料理体験や世界のお茶を提供するカフェ等、外国人市民が活躍する場を提供しました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	多文化交流会（フェスタ）来場者数	目標	450	300			人
				実績	477	800			
	2	成果指標	多文化防災訓練	目標	20				人
				実績	16				
	3	成果指標	外国人向けオリエンテーション	目標	20				人
				実績	20				
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)									
事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた新規入国者数も回復し、外国人市民個々の状況に応じた様々なニーズのサポートが求められます。							
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 ■ 今後実施(5 年度から)							
		具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	令和2年度まで行っていた多文化共生に関する啓発については一定の成果を収めたと考え、啓発講座を縮小しました。また令和3年度から開始したオリエンテーション及び防災訓練に関しては、市で実施している同内容の事業に統合する形で縮小しました。						
評価項目								評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか						a. 薄れていない b. 薄れている	a	
	評価の理由		外国人市民は増える傾向にあり、今後も様々なニーズに対応する外国人市民へのサポートは必要であると考えます。						
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか						a. 上がっている b. 上がっていない	a	
	評価の理由		多文化交流会(フェスタ)では、外国人市民が自国の文化を紹介し、他国出身者が享受することで違いを理解し合い、多文化共生社会への成果は上がっているものと考えます。						
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。						a. 可能性はない b. 可能性はある	b	
	評価の理由		市民館コミュニティ推進事業で外国人市民へのサポート事業が行えるため、統合を図ることで効率的な運営ができると考えます。						

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	III	外国人市民へのサポートもコミュニティ推進の対象と捉え、今後は市民館コミュニティ推進事業にて、国籍の枠だけに捉われない地域課題に対応する事業を計画・実施するため、独立した事業としては終了することとしました。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	20	50	スポーツ推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		蔡	62360

事業の概要										
事業の概要		地域で活動するスポーツ関係団体等の多様な主体と連携して地域の交流を促進し、誰もがスポーツに親しめる地域づくりを進めます。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業				
		平成23年度	—							
地域の課題と現状		スポーツを通じて地域の活性化、区民の交流、健康増進を効果的に推進していくためには、多様な主体と連携して誰もがスポーツに参加しやすい環境を整えていく必要があります。気軽にスポーツに親しむことのできるきっかけづくりや、年齢や障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる環境整備の一環として、バラスポーツを体験する機会を拡充していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費	737	703	737	661				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
	一般財源	737	703	737	661					

計画 (Plan)	
事業の目的	地域で気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供することにより、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、スポーツを通じて住民同士の交流が促進されることで、活力のある明るく住みよいまちづくりに資することを目的とします。
今年度の事業の取組内容	・各種スポーツ大会の表彰支援 ・かわさきスポーツパートナーや地域団体等と連携した多世代交流やバラスポーツ体験会等の開催

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
		・少年野球、少年サッカー等、地域でスポーツ推進に取り組む団体主催の大会に対して区長杯を贈呈し、身近な機会でのスポーツの振興に取り組みました。 ・子育て世代のスポーツ実施率向上や多世代交流を目的としたイベント「スポマル！さいわい」について、新たな連携団体を加え、スポーツに関心の低い層でも楽しめるコンテンツと運動体験を組み合わせることで内容を充実させ、約1,500人の区民が参加しました。 ・昨年度立ち上げた「幸区ポッチャ大会」の運営団体、協力・協賛団体を拡充し、大会規模も昨年度の倍にして開催し、約300人の区民が、障害の有無や年齢に関わらずスポーツを楽しみ、多世代交流を通じて相互理解を深めました。 ・区主催のイベント等でバラスポーツ体験会を開催し、ポッチャ、シッティングバレー等様々な種類のバラスポーツを体験する機会を設けたほか、幸スポーツセンターと連携して、学校や地域のイベント・施設等でのポッチャ体験指導を67回開催しました。区役所・スポーツセンターでのポッチャ用具の貸し出しも含めると、約4,000人の区民がポッチャを体験しました。						
取組内容の実績等								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 活動指標	地域スポーツ団体に対する表彰回数		目標	4	5		回
				実績	3	5		
	2 活動指標	ポッチャ等のバラスポーツを体験した区民の数		目標	1,500	2,500		回
				実績	2,500	3,976		
	3 成果指標	スポマル！さいわい参加者数		目標	1,000	1,300		人
				実績	1,300	1,500		
				目標				
				実績				

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		バラムーブメントを地域スポーツ振興のレガシーとしていくために、区民と連携して取組を進める必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 5 年度 □ 今後実施（平成 年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		多世代交流を通じた相互理解、バラスポーツ実施率向上及び障害理解促進を目的として昨年度立ち上げた幸区ポッチャ大会について、多くの地域活動団体の賛意を得て実行委員会が拡充され、大会規模も倍の64チームで開催することができました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	バラムーブメントの推進について、区民と連携して取組を進める必要があります。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域の様々な団体と連携することにより、数値目標を達成すると共に、活動の広がりを得ています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	新たなイベントの実施を通じて、区内のスポーツ関係団体の連携を図り、時機と課題を捉えた取組を進めていく必要があります。障害の有無に関係なく多世代で楽しめるポッチャへのニーズが高いことから、更なる普及に向け、スポーツ関係団体等と連携した取組を進める必要があります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅱ 「スポマル！さいわい」については、更なる地域団体との連携を通じて内容を充実させ、次年度以降も継続的に実施していきます。 地域でのバラムーブメントの浸透を図るため、区内の様々な団体等と連携してポッチャ大会を開催し、ポッチャを通じて、障害の有無にかかわらず多世代の交流が広がるような取組を進めていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	35	市民館コミュニティ推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課			二宮・松本	541-3910

事業の概要										
事業の概要		様々な区民が参加し交流する機会を提供し、区民同士の交流と地域活動を始めるきっかけづくりを行います。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業		
		平成26年度		—						
地域の課題と現状		地域のつながりが希薄になってきているという現状に対処するため、市民が集える市民提案を実施し、区民同士が交流する場を用意して地域の活性化につなげていくことが求められています。								
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	206	187	206	28				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	206	187	206	28				

計画 (Plan)	
事業の目的	多様な主体が出会い、つながるとともに、市民自らが地域の課題解決や活動・交流に参加していけるよう支援します。
今年度の事業の取組内容	公募による実行委員会にて効果的な交流の場を検討し、つながりを大切にしたイベント等を開催します。また地域活動団体の情報の収集及び情報発信を行い、活動の場を地域へ広げていく支援をしていきます。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度			3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等			市民が集える市民提案型事業を募集し、実施しました。「IDOBATA SPACE」を事業実施場所として活用することで、ガラス張りの室内で実施している事業に市民館に入館しない方へも目を留めやすくしました。（事業提案者24名、実施回数106回、延べ参加人数1,333名）【3月31日時点】また、公募による実行委員会が主体になって実施した「夏休み基地」事業では、事業提案者18団体、延べ参加人数996名と多くの小学生の参加がありました。						
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標 市民館コミュニティ推進事業参加者数	目標	300	1,000			人	
			実績	1,989	2,329				
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
	4		目標						
			実績						

評価 (Check)									
事業を取り巻く社会環境の変化			新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のつながりの希薄化に拍車がかかり、より人と人とが直接会ってコミュニケーションをとることの重要性が求められています。また地域の中で地域人材が活躍できる場の提供をすることで、地域全体が活性化していくよう事業を区全体に展開していく必要があります。						
事業の見直し・改善内容			■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施(年度から)						
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			令和2年度まで行われていたコミュニティカフェ事業では、市民館ロビーで珈琲の提供及びイベントの開催をすることで参加した方同士が交流する内容でしたが、令和3年度からは大きく方向転換し、市民同士の交流を中心とした事業を開催することとしました。						
評価項目							評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか						a. 薄れていない b. 薄れている	a	
	評価の理由		地域のつながりの希薄化は新型コロナウイルス感染症の影響で拍車がかかっており、提案事業への参加者数も増加しています。						
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか						a. 上がっている b. 上がっていない	a	
	評価の理由		参加者数は増加しています。						
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。						a. 可能性はない b. 可能性はある	b	
	評価の理由		市民提案型事業に参加をすることで交流が生まれることから、事業に必要な経費を受益者負担とする現在の形を継続することで経費削減が見込めます。						

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	現在、幸市民館を中心とした事業を展開のほか、地域で活躍できる場を創設していくことで、地域全体の人のつながりが活性化するようにしています。今後は、さらに多くの活躍の場を提供していけるよう、地域及び市民提案者のニーズを的確につかんでいきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	45	区民祭開催経費			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631600		まちづくり推進部 総務課			若林	62113

事業の概要										
事業の概要		地域に密着した事業である幸区民祭の開催を支援し、新旧区民の交流と連帯を深め、地域コミュニティの活性化を進めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域コミュニティ活性化事業			
				—						
地域の課題と現状		新川崎・鹿島田駅周辺地区の再開発等により幸区においても人口が増加している中で、新旧区民のコミュニティを形成・発展させていくことが重要な課題となっています。また新型コロナウイルスが5類に移行し、昨年度の反省点等を踏まえて新たな運営方法等を検討する必要があります。運営及び出店・出演や来場者の集客について課題となっています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	203	203	203	203					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	203	203	203	203						

計画（Plan）	
事業の目的	「こころのふれあう ふるさとさいわい」を合言葉に区民の笑顔と活気があふれる地元ならではのまつりを目指します。
今年度の事業の取組内容	出店者へのルールの徹底など昨年度の課題を踏まえ、来場者が安全に楽しめるよう取り組みます。

実施結果（Do）										
上記取組内容に 対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	幸民祭実行委員会に補助金を交付して区民祭を開催し、2日間で10万7千人の来場者があった。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	参加団体数	目標	50	50			団体	
				実績	97	105				
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
				実績						
	4			目標						
				実績						

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		市民の行動変容に併せ、人と人とのつながりを再構築していく必要がある。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近）5年度 □ 今後実施（年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		多くの来場者楽しんでいただくため、出店者の参加ルールや会場レイアウトを変更し、安全・安心にイベントを開催した。		

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域住民が主体となって開催することにより、地域に対する愛着や住民同士の触れ合いを形成していく必要があるため。	
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	区民祭開催を契機として、様々な地域イベントが復活し、地域に賑わいと活力が戻りつつある。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	今年度の反省点を踏まえながら、地域の活性化につながる区民祭を企画していく必要がある。	

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	実行委員会と緊密な連携を図り、地域のニーズを踏まえつつ、継続して開催していく。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称					
款	項	目	大	中	小						
11	01	03	26	25	05	地域防災活動推進事業					
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先			
			630000		危機管理担当		堀井	62353			
事業の概要											
事業の概要			幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が大規模災害に備え、必要な対応策の協議・検討を行うとともに、防災・減災に関する情報収集・共有を図るため、幸区災害対策協議会を運営するなど、地域防災力の強化に向けた取組を推進します。								
実施期間			事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	安全・安心まちづくり事業			
			平成25年度		—						
地域の課題と現状			幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が、平常時から緊密な連携を図りながら、大規模災害の発生に備えた対応策の検討・実施や、防災関連情報の共有化を推進していくことが求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
	事業費	725	518	386	197						
	財源内訳	国庫支出金									
		市債									
		その他特財									
	一般財源	725	518	386	197						
計画 (Plan)											
事業の目的			幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政の連携により、地域防災力の強化を進め、区民の生命と財産を守ります。								
今年度の事業の取組内容			幸区災害対策協議会の「全体会」のほか、「医療救護部会」「要援護者支援部会」「帰宅困難者対策部会」「地域防災連携部会」の4つの部会における、分野別の各種課題に関する必要な対応策の協議・検討と、関係機関・団体と連携した訓練等を実施します。								
実施結果 (Do)											
上記取組内容に対する達成度			3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等			幸区災害対策協議会全体会については、今年度新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類へ移行されたことに伴い、対面開催1回、書面開催1回の計2回実施しました。協議会各部会については2回ずつ開催しました。訓練に関しては、ロジスティクス研修(10/12)、新川崎・鹿島田駅周辺帰宅困難者対策訓練(10/13)、区本部(福祉班)開設訓練及び福祉施設等情報受伝連訓練(2/7)等を実施しました。なお、区の総合防災訓練については、第1回を河原町グラウンド・体育館、第2回を塚越中学校及び下平間小学校で実施しました。								
数値で把握することが可能な取組			指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
			1 成果指標	各種訓練等(参加者数)	目標	1,500	1,500			人	
					実績	1,858	1,630				
			2 活動指標	協議会・部会の開催回数	目標	9	9			回	
					実績	9	9				
			3		目標						
実績											
4		目標									
		実績									
評価 (Check)											
事業を取り巻く社会環境の変化			ここ数年、日本各地で風水害や地震災害が頻発しています。全国各地でみられる線状降水帯による河川の氾濫や台風による被害、また令和6年元旦に発生した「能登半島地震」など、自助・共助の必要性が大きく取り上げられており、行政との連携による地域防災力向上の必要性が高まっています。								
事業の見直し・改善内容			■ 実施 (直近) R 5 年度 □ 今後実施(平成 年度から)								
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			令和元年度には、「令和元年東日本台風」に係る災害対応を踏まえ、洪水想定訓練として実施をしました。また、令和2年度には、避難所における新型コロナウイルス感染症対策として、「風水害時緊急避難場所運営マニュアル」の見直しを図りました。さらに、令和3年度には、避難情報発表基準や高潮浸水想定区域の見直し、新型コロナウイルス感染症対策による、避難者の受入れ体制の変更等を踏まえ、各種マニュアルの見直しを図りました。令和4年度には、「幸区避難所開設マニュアル」及び「避難所開設アクションカード」を用いた避難所開設訓練を実施しました。令和5年度は幸区災害対策協議会全体会を4年ぶりに対面で開催しました。本協議会全体会の開催方法について議案としてとりあげ、報告案件のみの場合は原則、書面開催による効率化を図ることとしました。								
評価項目											
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが落れていないか						a. 落れていない b. 落れている		a		
	評価の理由		首都直下地震が約30年の間に70%の確率で起こるといわれていることや、風水害や地震災害が頻発している中、令和6年元旦に能登半島地震が発生したことからも、地域の防災に関する意識が強まっており、事業に対するニーズはさらに高まっていると考えられます。								
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか						a. 上がっている b. 上がっていない		a		
	評価の理由		各部会の訓練等においては、新型コロナウイルス感染症が5類になったことから、積極的に人が参加し実施できるようになり、事業全体を通し地域防災力の強化を進められました。また、今年度も引き続き、全避難所23箇所で開催訓練を実施したこと、着実に成果が上がっているものと考えられます。								
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。						a. 可能性はない b. 可能性はある		a		
	評価の理由		引き続き、幸区災害対策協議会委員等とも協議を行いながら、これまでに訓練に参加したことのない区民や防災協力事業所等の参加など、訓練の実施内容の見直しなどによる改善を進め、広く区民の防災意識の高揚及び災害対応力の向上を図ります。								
改善 (Action)											
今後の事業の方向性			方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性					
			Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅰ	大規模災害の発生時における災害対応等、更なる地域防災力の向上が求められていると考えられることから、基本、事業の目的や方向性は維持するものの、必要に応じた適時適切な見直し、改善を行いながら、引き続き事業を実施していくことが重要と考えられます。					

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	25	幸区災害対策推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			630000		危機管理担当		堀井	62353	

事業の概要

事業の概要		訓練の運営支援や講座等の開催による自主防災組織・避難所運営会議の活性化、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な総合防災訓練の実施、区本部・避難所の防災資器材の充実など、区内の防災基盤整備の取組を進めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	安全・安心まちづくり事業			
		平成25年度		—						
地域の課題と現状		市民主体の避難所運営等の必要性や、区本部の機能強化に向けた、防災資器材の計画的な配備がより強く求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	5,563(4,581)	4,261	6,085(5,585)	3,182					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	5,563(4,581)	4,261	6,085(5,585)	3,182				

計画 (Plan)

事業の目的	本市周辺で発生が想定される大規模災害に備え、地域防災力の強化を進め、円滑な災害対応に向けた体制構築を行い、区民の生命と財産を守ります。
今年度の事業の取組内容	近年多発している大規模災害等を踏まえ、震災を想定した区内避難所(23か所)での避難所開設訓練、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な訓練、地域住民との協働による、地区防災計画の策定、各種感染症対策を踏まえた防災資器材等の充実・強化、自主防災組織等の活性化に資する講座等を開催します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標とおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	今年度は幸区内全避難所において「避難所運営会議及び開設・運営訓練」を実施すると共に、自主防災組織等による避難所開設・運営を円滑に進めるため、備蓄倉庫内のレイアウトや数量の確認、感染症対策物資（衛生用品等）や避難所開設キットの中身を再整備しました。また、各避難所運営会議及び訓練では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、参加者に制限を設けず避難所運営会議及び訓練を実施し、地域防災力の強化を進めることができました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	避難所開設・運営訓練（開催回数）	目標	23	23			回
				実績	21	23			
	2	成果指標	避難所開設・運営訓練（参加者数）	目標	800	800			人
				実績	850	838			
	3	成果指標	自主防災組織等活性化講座（参加者数）	目標	300	300			人
				実績	42	150			
	4	活動指標	地区防災計画WS等（参加者数）	目標	80	80			人
実績				52	68				

評価 (Check)

事業を取り巻く 社会環境の変化		ここ数年、日本各地で風水害や地震災害が頻発しています。全国各地でみられる線状降水帯による河川の氾濫や台風による被害、また、令和6年元旦に発生した「能登半島地震」など、自助・共助の必要性が大きく取りあげられており、行政との連携による地域防災力向上の必要性が高まっています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 5 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和元年度川崎市総合防災訓練では、自主防災組織等が主体的に実施する「避難所一斉開設訓練」を行いました。また、令和2年度には、「令和元年東日本台風」の発生や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、各避難所における「風水害時の緊急避難場所運営マニュアル」の改訂や、コロナ禍における避難所運営に関わる備蓄物資の整備を行いました。令和3年度には、避難情報発表基準や高潮浸水想定区域の見直し、さらには、継続した新型コロナウイルス感染症対策として、避難者の受け入れ態勢の変更等、各種マニュアルの見直しを図りました。令和4年度には、引き続き、各種マニュアルの更新を行い、避難所開設訓練を実施しました。令和5年度は前年度同様に「避難所開設アクションカード」を用いた訓練を実施すると共に、「幸区避難所開設・運営マニュアル」を見直しました。		

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	能登半島地震の発生などにより、地域からさらなる地域防災力の向上が求められていると考えられることから、基本、事業の目的や方向性は維持するものの、必要に応じ適時適切な見直し、改善を行いながら、引き続き事業を実施していくことが重要と考えられます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	15	交通安全普及啓発事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			630000		危機管理担当			中野	62354

事業の概要										
事業の概要		区内での自転車交通事故等の現状を踏まえ、幅広い世代に対し交通安全意識の向上を図るため、交通安全教室などを通じて、交通安全知識の習得などを目的とした啓発活動を行います。								
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心まちづくり事業		
実施期間		平成18年度		—						
地域の課題と現状		令和4年度は幸区内の交通事故発生件数が増加傾向に転じ、自転車に関する交通事故の発生割合も38%を超え、県内平均を上回る高い割合となり、県内における自転車事故多発地域に指定されています。 また、近年、自転車事故による多額の賠償例や、高齢者に関係する事故の増加等が社会的な問題となっており、幸区においても自転車や高齢者に関係する交通事故の発生割合がいずれも高い水準にあります。								
		年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度
予決算 (単位:千円)			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費		1570	975	1,461	1,259				
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源		1570	975	1,461	1,259					

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区内の自転車関係事故の発生割合は依然と高く、県下でも有数の自転車事故多発地域となっていることから、自転車事故を減らし、安全で住みよい幸区の実現を目指すために、区民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図り、交通事故を防止するために啓発活動を実施します。
今年度の事業の取組内容	小学校1年生・3年生を中心に、中学生、保育園児や、世代に応じた交通安全教室を実施するほか、各季(春・夏・秋・年末)の交通安全期間中及び各強化月間において啓発活動等を実施します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に 対する達成度	2	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	保育園、小学校、中学校、高校、町内会、こども文化センター、わくわくプラザ、寺子屋で交通安全教室を実施し、要望に応じた内容となるよう、校庭を使用した実技、スケアードストリート、自転車シュミレーター、交通安全VR、神奈川県警教育隊など、多様なメニューにより実施しました。 特に今年度2校で実施した中学校・高校での、スケアードストリート(スタントマンによる交通事故再現)では、模擬的に事故を目の当たりにすることで、交通安全意識の向上を図りました。 また、昨年制定された神奈川県交通死亡事故多発警報(県下で7日間で7名以上の死者が出た場合に発令)が初めて発令されたため、注意喚起音声を作成し、夕方のパトロールを2回(各3時間程度)実施しました。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	活動指標	各交通安全教室総実施回数	目標	50	50			回
				実績	69	68			
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く 社会環境の変化		区内の自転車関係事故の割合(令和4年38.4%、県下ワースト3位)は依然と高く、近年ではスマートフォンやイヤホンを着用した「ながら運転」が問題となっています。また、自転車運転者が加害者となり、高額な賠償を求められるケースも増加しており、賠償責任保険への加入促進が課題となっています。 さらに、高齢化に伴う高齢者関係事故も増加していることから、高齢者の交通事故防止にも注力していく必要があります。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 2 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和2年度から効果的な交通安全教育を推進するため、自転車シミュレーターを活用した交通安全教室(小学校3年生以上)を実施しています。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	自転車関係事故の割合が前年度より高くなっており、より一層の取り組みが求められるため	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	区内交通事故発生件数は前年度比-18件(12月末時点)と減少傾向にあるため	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	交通安全教室など実施手法が確立しており、事業を円滑に実施できていることから、当面は現状のまま継続していきたいと考えています。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	全体の交通事故件数は減少しているが、一方で自転車交通事故多発地域に指定され、引き続き自転車交通事故防止のための広報啓発活動を継続していきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	10	安全・安心まちづくり普及啓発事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			630000		危機管理担当		中野	62354	

事業の概要

事業の概要		区民が安全かつ安心して暮らせるまちづくりを目指すため、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という心がけを住民一人ひとりが持つことが出来るよう、意識の高揚を呼びかける啓発活動を実施します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	安全・安心まちづくり事業			
		平成17年度		—						
地域の課題と現状		幸区内においても、振り込め詐欺等、金銭詐取や主に高齢者を対象に子どもを騙った携帯電話に関する犯罪等が日常的に起こり得る状況にあり、防犯対策を迅速に講ずることが望まれることから、警察や地域の防犯団体と連携した活動を継続していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費	318	270	317	159				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	318	270	317	159						

計画（Plan）

事業の目的		地域の防犯・防火関係団体や町内会・自治会と協力して啓発活動を行い、防犯・防火意識の醸成を図りながら、犯罪や火災を減少させて、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。							
今年度の事業の取組内容		特殊詐欺や放火防止等を呼びかける街頭キャンペーン、毎月1日・10日の子ども安全の日に行う防犯パトロール、町内会等への防犯パトロールベストおよび誘導灯の貸出による自主防犯パトロールを促進するとともに、幸警察署生活安全課と連携した特殊詐欺注意喚起庁内放送を実施します。							

実施結果（Do）

上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・神奈川県定める安全・安心まちづくり旬期間中において、鹿島田駅周辺にて街頭キャンペーンを実施しました。併せて幸区役所出入口において、防犯協会主催の啓発キャンペーンへの協力を行いました。 ・ラゾーナ川崎ルーフ広場において、年末の防犯、防火に関する年末街頭キャンペーンを実施しました。 ・毎月1日、10日子ども安全の日に見童登校時に青色回転灯を点灯した公用車による防犯パトロールを実施しました。 ・自治会等が防犯パトロール等で使用するベスト貸与により、自主防犯パトロールの促進を図りました。(3団体40着) ・特殊詐欺注意喚起として、卓上上り旗を高齢者来庁数の多い窓口を中心に設置し、特殊詐欺の啓発活動を実施しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 活動指標	安全・安心街頭キャンペーン	目標	2	2			回	
			実績	2	2				
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
	4		目標						
実績									

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		区内の犯罪発生件数は(令和5年11月末の刑法犯認知件数:779件、前年比+167件、増減率27.3%)は依然と多く、特に窃盗犯、自転車盗、自動車盗、空き巣などが問題となっています。中でも幸区で発生した間バイト強盗事件は全国ニュースとなり、区民の防犯に対する意識は高く、今後も犯罪の予防、抑止に注力していく必要があります。							
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 4 年度 □ 今後実施(年度から)							
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和4年度から各小学校の下校時にあわせ、不定期に御幸、南河原、日吉の3地区を青色防犯灯を点灯した公用車による防犯パトロールを実施しています。							
評価項目					評価				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか				a. 薄れていない b. 薄れている		a		
	評価の理由	区民アンケートからも継続して、安全安心なまちづくりに対する関心が高いため							
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか				a. 上がっている b. 上がっていない		a		
	評価の理由	区内の特殊詐欺認知件数は前年度比-6件(12月末時点)となっているため							
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。				a. 可能性はない b. 可能性はある		a		
	評価の理由	地域住民が主体となった自治活動のため							

改善（Action）

今後の事業の方向性	方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅰ	地域の方が主体となって、活動を持続できるようキャンペーンを実施し、区民の防犯意識の向上を図る。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	45	05	区民に身近な区役所づくり推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			633300		区民サービス部 区民課			前田	62231

事業の概要										
事業の概要		市民に便利で快適なサービスの効率的、効果的かつ総合的な提供を図り、市民の視点に立った区役所サービスの充実を目的として、区役所サービス向上指針に基づき、幸区役所サービス品質向上推進委員会で快適な庁舎環境整備、人材育成等により区役所サービスの向上に取り組めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	区役所サービス向上事業			
		—	—	—	—					
地域の課題と現状		多様化する市民ニーズや社会環境の変化のほか、多面的・多角的に区役所サービスを捉え、組織として、また一職員としての確かつ柔軟に対応していくことが求められています。								
予決算 (単位:千円)	財 源 内 訳	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	202	162.5	220	125				
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財	151	66	169	125				
		一般財源	51	96.5	51	0				

計画 (Plan)	
事業の目的	職員の区役所サービスに対する意識向上や窓口・電話応対等での接遇力を高めるとともに、来庁者にとって安全・安心で快適な庁舎環境の改善等を図り、区役所窓口の利便性の向上や満足度の高いサービスの提供を推進します。
今年度の事業の取組内容	幸区役所サービス品質向上推進委員会におけるワーキングチームによる企画・提案や実践を通して、区役所サービスの更なる向上に取り組めます。また、区民の視点に立った満足度の高いサービスを推進するため、区役所職員の窓口サービスや応接能力の向上等をめざした研修を実施します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		幸区役所サービス品質向上推進委員会におけるワーキングチームにて、コミュニケーションボード作成、緑化かわさきフェア周知、小さい子ども連れの来庁者の待ち時間対応ツールの作成をそれぞれ提案・調整・実施しました。他には、庁内の整理整頓や待合椅子の洗浄も実施しました。また、区役所職員の窓口サービスや応接能力の向上等をめざし、サービス向上研修や認知症サポーター養成講座等を実施しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	幸区役所サービス品質向上推進委員会ワーキンググループの会議開催数	目標	6	6			
				実績	6	6			
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		あらゆる自治体業務においてデジタル化・オンライン化が急速に進み利便性が求められる一方、高齢者や障害者、外国人住民など窓口対応が不可欠な方に対してはより多面的・多角的なサービスが必要となります。			
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 5 年度 □ 今後実施(年度から)			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		・R5年度 コミュニケーションボードを作成しました。 ・R4年度 幸あり手帳の運用を見直しました。(印刷版リニューアルとデジタル版作成) ・R3年度 外国人市民情報コーナーを拡充(記念撮影パネル・展示物の整理等)しました。			

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区役所として、市民サービスの質は高く保つ必要があります。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	柔軟な意見を持つ若手職員で形成されたワーキンググループでは、課の垣根を超え活発な意見交換を行っています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	市民のニーズに応じて臨機応変に対応するため必要があるため必ずしも効率を求めるものではありませんが、関係部署と連携を取りながら、経費面や携わる人員等について改善する余地があります。		

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	次代を担う若手職員の前向きな意見に期待し、区役所内の横のつながりはもちろん、他区への横展開も意識しながら、区役所サービスの向上に取り組んでいきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	45	10	幸区情報発信推進事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			631650		まちづくり推進部 企画課		連絡先
							宗
							62122

事業の概要										
事業の概要		区の地域課題解決への取組や区政情報・地域資源等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信の強化と充実を図ることを目的に、区独自の広報紙である「さいわい広報特別号」を発行し、新聞折込のほか、区内公共施設への配架、各種イベントや会議等で区民に配布します。								
		事業開始年度 平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		区役所サービス向上事業		
実施期間										
地域の課題と現状		区役所が実施する事業は、地域特性や区民ニーズを的確に捉えた取組であり、それらをより多くの区民に知ってもらう必要があります。写真やイラストを多用し、目を引く、分かりやすい紙面作成を行っています。また、SNSを活用するなど様々な媒体を活用して情報を発信する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	1125(1,093)	90	1,125	1,524					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	1125(1,093)	90	1,125	1,524				

計画 (Plan)	
事業の目的	区の地域課題解決への取組や区政情報・地域資源等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信の強化と充実を図ることを目的としています。
今年度の事業の取組内容	旬のテーマについてさいわい広報特別号を発行し、全戸ポスティングや公共施設、各種イベント、会議等での配布を通じて区民への情報発信を行います。また、地域課題の解決に向けた区民への啓発のための情報発信等を行います。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	緑化フェアについて周知するとともに、区内の緑の魅力スポットや緑化に向けた取組を伝えることを目的として、3月にさいわい広報特別号を84,000部発行した。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	活動指標	さいわい広報特別号発行部数	目標	32,200	32,200			部
				実績	0	84,000			
	2	活動指標	instagram発信数	目標	48	48			回
				実績	56	48			
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		スマートフォン等の普及により情報を得る手段が多様化している中、今後ますます高齢化が進む幸区においては、紙媒体による広報は一定のニーズがある手段と考えられます。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R3:より効果的な発信のため、市政だよりと同様に、全戸ポスティングによる配布に変更しました。(区の新たな課題即応事業費を活用) R2:紙面製作業務と印刷・配布業務を一本の契約で行うことにより、契約事務の簡素化を図りました。また、特集の内容に応じた配布先の見直しを行いました。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	市民ニーズが複雑化・多様化している中、区民の理解と信頼を得ながら、区民満足度の高いまちづくりを進めていくためには、市政運営等について、より分かりやすく、かつ伝わるように情報発信する必要があります。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	令和4年度幸区区民アンケートの結果では、65.3%が市政だよりから行政情報を入手していることから、紙媒体での情報発信は一定のニーズがあると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	同様に全戸ポスティングにより配布する他の広報紙を含めて、効果的・効率的な区の広報について、今後検討する必要があります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	さいわい広報特別号は、地域特性や区民ニーズを的確に捉えた特集を計画的に発行しています。幸区における各地域課題対応事業において、多様な広報媒体で情報発信しており、内容の重複等も考慮し、発行内容の精査など見直しを図りながら、ターゲットに的確な区政情報等が伝えられるよう、事業を進めていきます。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	40	05	幸区提案型協働推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			宗	62122

事業の概要

事業の概要		地域の課題を地域自ら解決していくことを目指して、地域の課題の解決に資する公益性の高い事業を実施できる市民活動団体等を公募して、協働型の事業委託を行います。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域課題対応その他事業			
		平成20年度		—						
地域の課題と現状		地域課題が複雑化・多様化している中で、区民目線での課題提起や解決に向けた取組提案は、的確な地域課題の把握や解決に向けた効果的な事業実施の観点から、必要性が高く、地域課題解決に向けた取組への区民参加促進の観点からも、重要性が高いです。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	2,137	1,740	2,137	1,793					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財 一般財源	2,137	1,740	2,137	1,793				

計画 (Plan)

事業の目的	市民活動団体等から、地域課題の解決に向けた事業提案を公募し、提案団体との協働により事業実施をすることで、地域課題の解決を図ります。
今年度の事業の取組内容	区計画等を踏まえながら、区の地域課題全般に関する事業を公募します。応募のあった事業について、学識経験者、行政職員で構成する審査委員会等において選考するとともに、採択された事業について、提案団体と区との協働により事業を実施します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	令和5年度実施事業として7団体(新規6団体)から応募があり、外部委員を交えた審査会を経て5事業(新規4団体)が採択され、提案団体、事業所管課と調整を図りながら、地域課題解決に資する効果的な事業を推進しました。 ・「事業名」(団体名) ・「幸区オリジナル盆踊りプロジェクト」(NPO法人幸区盛り上げ隊) ・「高齢者向けスマホ講習会の指導者育成事業」(ネットでeシニア) ・「幸区の地域ミュージカル創出事業 かわさきドリームミュージカル～太田道灌と夢見が崎～」(かわさきドリームミュージカル実行委員会) ・「つなげてひろげる！ Saiwai waiwai base プロジェクト」(まさ出版)								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	幸区提案型協働推進事業への応募団体数	目標	5	5			団体
				実績	7	7			
	2	成果指標	幸区提案型協働推進事業の実施団体数	目標	5	5			団体
				実績	5	5			
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		地域課題が複雑化・多様化しているため、課題解決に向けて継続的な取組が求められています。			
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 年度 □ 今後実施(平成 年度から)			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度:令和5年度募集に向け、経費の支出方法を、委託契約から負担金方式へ変更しました。 R1年度:令和2年度募集に向け、前年度実績を踏まえ、1事業当たりの予算額を原則「75万円以内」から「50万円以内」とし、より多くの提案事業が実施できるよう募集要項を見直しました。 H30年度:平成31年度募集に向け、パラムメントの提案の促進を図るため、第2次審査時の審査基準を見直し、パラムメントに関する提案については加点対象としました。			
評価項目					
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域課題が複雑化・多様化しているため、課題解決に向けた事業のニーズは高いと考えられます。			
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域課題の解決に資する5件の実施事業があり、区民の参加と協働による地域課題解決に向けた取組意欲の向上へとつなげることができたと考えられます。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。			a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	今後も、区民にとって提案意欲が高まる事業となるよう、地域の課題やニーズを把握するとともに募集要項等の見直しを図りながら事業を展開していく必要があります。			

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	地域課題が複雑化・多様化している中で、地域の力による課題解決を推進していくため、地域の課題やニーズを把握しながら、募集要項等の見直し・改善を図り、提案を促進していく必要があります。

令和5年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	50	05	区の新たな課題即応事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			大野	62122

事業の概要									
事業の概要		年度途中に発生する新たな課題に適切かつ迅速に対応し、課題解決に向けた取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	区の新たな課題即応事業		
		平成26年度		—					
地域の課題と現状		区民にとって身近な区役所が、年度途中に新たに生じた地域課題等に対し、区長の権限で適切かつ速やかな対応を行っています。区企画調整会議を開催し、事業の必要性や方法などについて審議を行い執行しています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	5,000	1,270	5,000	3,427				
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	5,000	1,270	5,000	3,427					

計画 (Plan)	
事業の目的	年度途中に新たに生じた地域課題等に対し、適切かつ速やかに対応します。
今年度の事業の取組内容	年度途中に発生する新たな地域課題等に対して、区企画調整会議で事業の必要性や方法などについて審議し、対応します。

実施結果（Do）											
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		①災害対策における備品の購入（626,241円） ②フェンス補修工事（2,420,000円） ③リールパーテーションの購入（248,688円） ④「川崎赤煉瓦倉庫」モニュメント案内シート作成（132,000円）									
数値で把握することが可能な取組					指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1			目標						
					実績						
		2			目標						
					実績						
		3			目標						
					実績						
		4			目標						
					実績						

評価（Check）

事業を取り巻く 社会環境の変化		新たに発生する課題に適切かつ速やかに対応する必要があります。			
事業の見直し・改善内容		☐ 実施（直近）平成 年度 ☐ 今後実施（平成 年度から）			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載					
評価項目					
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	年度途中に発生する新たな課題に適切かつ速やかに対応する必要があり、事業のニーズは高いと考えられます。			
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	関係部署と連携・調整を図りながら、迅速かつ適切に対応することができた区民の利便性向上を図ったことから、成果があったと考えられます。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。			a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	即応事業費で対応すべき新たな課題について、適切かつ迅速に対応するため、今後も関係部署と連携して必要経費等を確認して執行していく必要があります。			

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	新たな課題に対して、財政局や関係部署と連携・調整を図りながら区民サービスに支障がないよう即時対応していくため、事業を現状のまま継続することが適切であると考えられます。また、即応事業費を執行した事業について、今後の継続的な取組や関連事業の必要性等を検証し、適正な予算要求に向けて関係課と調整を図っていく必要があります。